

石川町地域公共交通総合連携計画

基礎調査及び、計画の目標と方針(案)

平成25年11月26日

目 次

1. 計画概要	1
1-1. 計画の目的	1
1-2. 対象地域	1
1-3. 計画の進め方	2
2. 基礎調査	3
2-1. 上位関連計画の整理	3
2-2. 社会経済特性	6
2-2-1. 人口	6
2-2-2. 土地利用・施設分布	9
2-2-3. 財政状況	12
2-3. 交通特性	13
2-3-1. 道路交通特性	13
2-3-2. 公共交通特性	16
2-3-3. その他移送サービス	41
2-3-4. 人の動き	44
2-3-5. 外出における困りごと	50
3. 地域公共交通の課題の整理	52
4. 地域公共交通総合連携計画の目標と方針の立案	55
4-1. 石川町の地域公共交通の将来像	55
4-2. 地域公共交通総合連携計画の計画期間	56
4-3. 地域公共交通総合連携計画の目標	56
4-4. 目標を達成するための施策の方向性	57

1. 計画概要

1-1. 計画の目的

本計画は、町内における移動や周辺市町村との地域間移動に便利な交通と小・中学校統合に伴う新たな通学バスとの融合、庁舎移転とまちなか再生計画とリンクした生活交通体系の実現を目指し、環境の変化に対応した生活交通ネットワークを形成するために実施します。

1-2. 対象地域

この計画は、石川町全域を対象とします。



図 1-1 本業務の検討対象位置図

出典：石川町ホームページ

1-3. 計画の進め方

- ・本計画では、まず、既存のデータ、関係者や町民へのアンケート、ヒアリングなどを通じ、現在の本町の交通の課題を整理します。
- ・次に、課題解決のための、地域公共交通の目標と基本方針を立案します。
- ・そして、目標を達成するため今後実施を想定する施策を立案します。
- ・最後に、運行の見直しなどが必要な場合は、実験的に運行を行うこととし、その運行計画を立案します。
- ・本計画は、町だけで策定するのではなく、住民代表や各種団体、交通事業者、県、国、学識者など地域公共交通に関わる人々で構成する「石川町地域公共交通活性化協議会」における協議を踏まえ策定していきます。

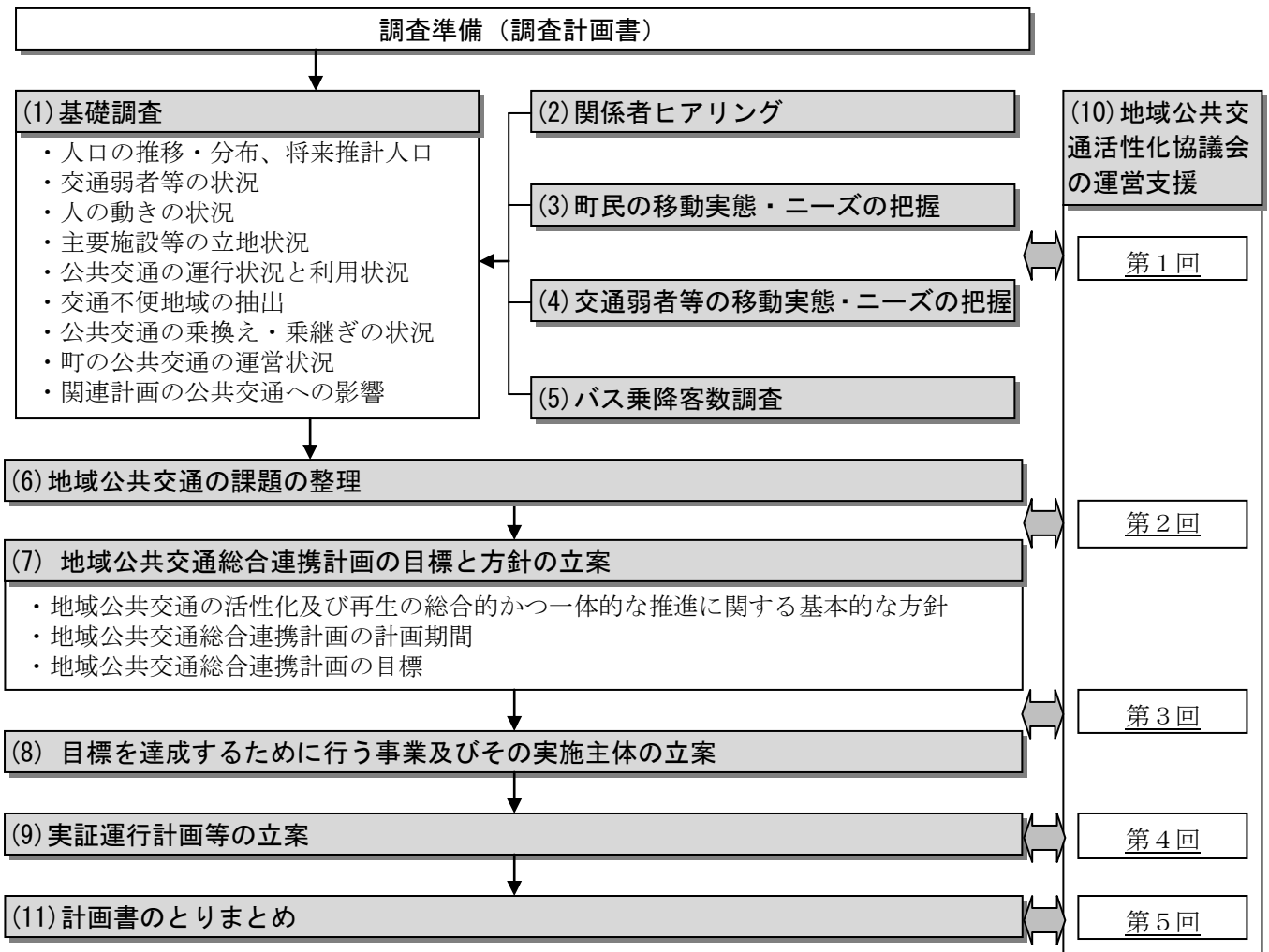


図 1-2 計画の策定手順

2. 基礎調査

2-1. 上位関連計画の整理

(1) 石川町第5次総合計画 後期計画

- ・事前のニーズ把握では、公共交通は満足度が平均以下と低く、改善が必要な施策と位置づけ。
- ・公共交通は「安全・安心で快適なまち」を実現する施策の一つとして位置づけられており、JR水郡線と路線バスの利用促進と関係機関への働きかけによる効率的な公共交通体系を施策の方向性としている。

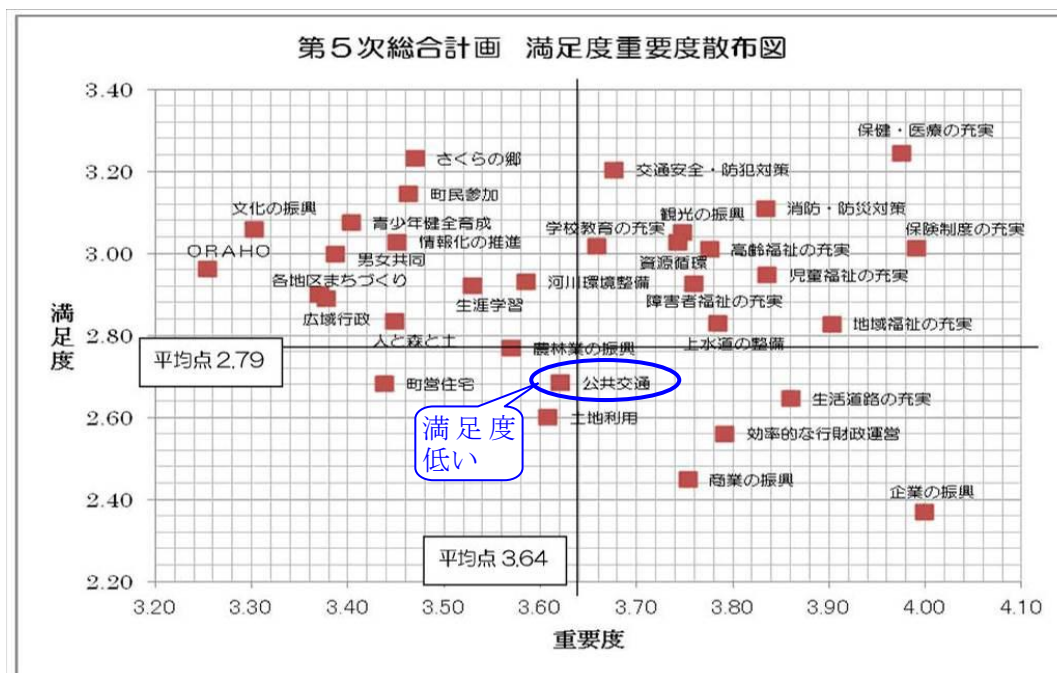


図 2-1 町民アンケート結果 (H24.10)

公共交通機関の課題

- ・公共交通機関は、自家用車を持たない人の交通手段として、その存在意義は重要。
- ・マイカーの普及や少子化などの影響により、利用者は年々減少
- ・観光や地域の活性化を図るための移動手段として、さらには環境負荷の軽減などの面からも、その必要性を再認識することが必要。

【施策の方向】

公共交通機関のさらなる利用促進を図るとともに、関係機関に働きかけを行い効率的な公共交通体系を目指します。

①鉄道の利用促進・利用しやすい環境づくり

- ・臨時列車の定期化をはじめとするダイヤ改正及び施設改善の要望
- ・積極的な鉄道情報の発信

②路線バスの利用促進・利用しやすい環境づくり

- ・生活路線バス運行の維持・確保
- ・バス事業者に対するダイヤの見直しなどの働きかけ

③公共交通を利用しやすい環境づくり

- ・公共交通の持つ定時性、輸送性の高さや環境負荷の低減などの優位性をPR

図 2-2 総合計画後期基本計画における「公共交通機関の充実」部分の取り組み

(2) 石川都市計画区域マスタープラン（素案）

- ・石川町を中心に玉川村、平田村、浅川町とともに石川都市計画区域を構成。
- ・石川町中心部を「地域拠点」、藤沢工業団地を「工業拠点」、国道 118 号沿道を都市的土地利用に位置付け、「いつまでも住み続けられるよう、暮らしを支える機能を有した拠点の形成」に取り組むことを目指している。

【石川都市計画区域の都市づくりの基本理念】

緑に囲まれた暮らしを守り、
自然の恵みを生かした臨空型の新たな産業を創造する都市づくり

- ・阿武隈川水系の上流域として、豊かな自然環境の保全と水質の保全に取り組む。
- ・阿武隈高地の丘陵に囲まれた市街地、山間に点在する集落など、緑に囲まれたまほろばのまちづくりに取り組む。
- ・本都市計画区域の生産物や自然資源と福島空港を活用し、自然環境と調和した新たな産業の場の創造に取り組む。
- ・いつまでも住み続けられるよう、暮らしを支える機能を有した拠点の形成に取り組む
- ・福島空港とあぶくま高原道路などの活用とともに、温泉や阿武隈高地の豊かな自然を活かした心と体を休めることができる場を提供することにより、交流の拡大に取り組む。



図 2-3 石川都市計画区域の都市構造図

出典：石川都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（素案）平成 25 年 6 月時点

(3) 石川町立小・中学校統廃合計画

- ・少子化により、町立小学校を 8 校から 3 校（石川小、沢田小、野木沢小）、中学校を 2 校から 1 校（石川中）に統合予定（H27 年度目標）
- ・遠方の小中学生は、委託バスまたは路線バスで通学。

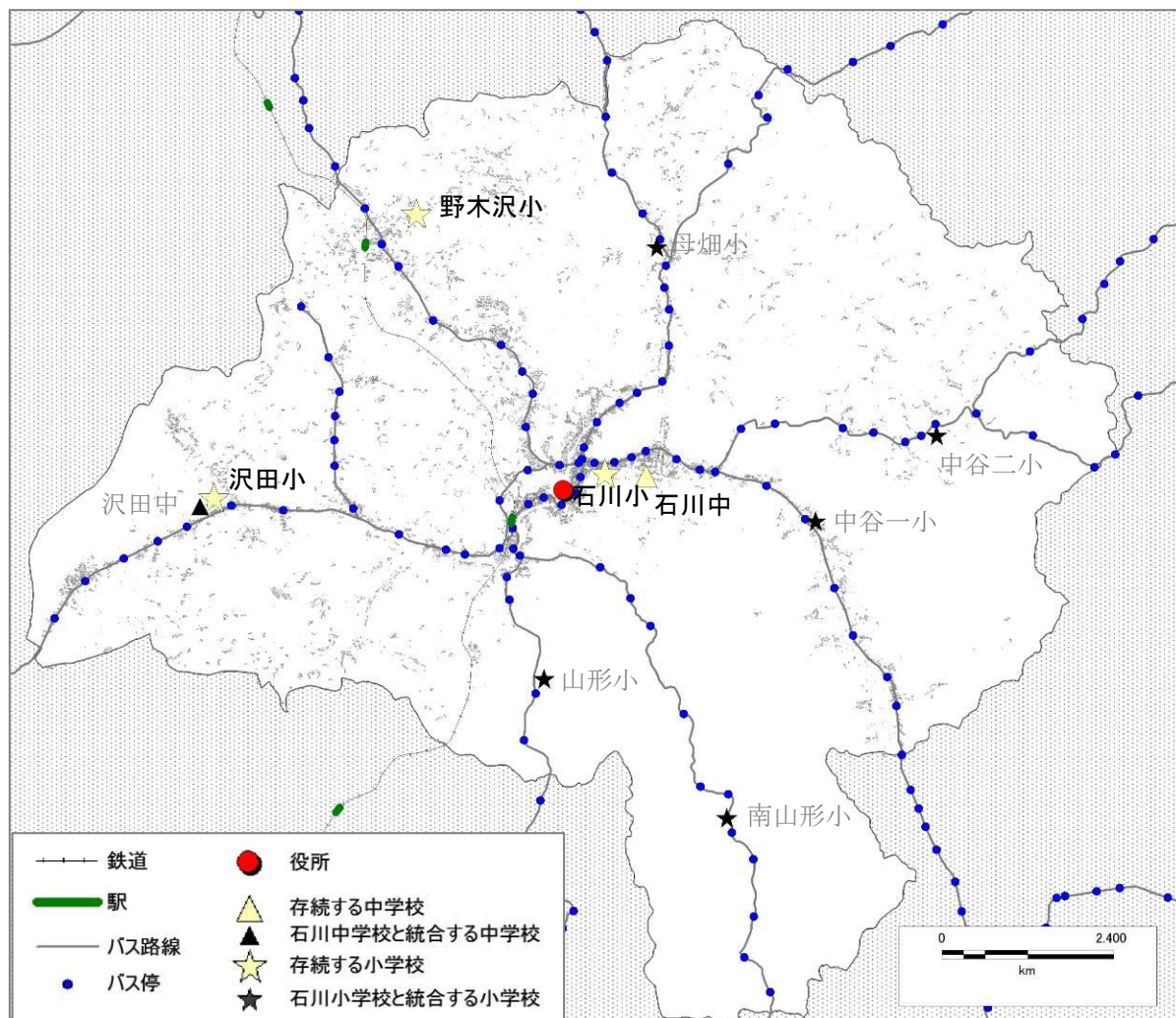


図 2-4 小中学校の統廃合状況

表 2-1 小中学校の統廃合に伴う通学手段について

項目		概要
運行地域	中学生対象	①沢田方部 ②野木沢方部
	小学生対象	③母畑方部 ④中谷第一小方部 ⑤中谷第二小方部 ⑥山形方部 ⑦南山形方部 ⑧石川（旧石川小学校）方部
運行内容	回数	登校時：1 回 下校時：小学校 2 回、中学校 1 回 ※季節により運行時間、回数、焼酎相互利用を調整
	費用	町が負担
事業者との調整		バス事業者と十分に調整

出典：石川町立小・中学校統廃合計画（平成 24 年 9 月）

2-2. 社会経済特性

2-2-1. 人口

○他市町と比較しても進む少子高齢化

○中心市街地及び幹線道路沿道に人口が集積。一方、幹線道路沿道以外にも集落が点在

(1) 人口の推移

- ・平成 24 年の人口は約 17 千人であり減少傾向。平成 30 年には 15.8 千人と予測されているが、総合計画後期計画では、減少傾向に歯止めをかけ 16 千人にとどめることを想定。
- ・高齢者割合は一貫して増加しており、平成 24 年時点で 28%。一方、15 歳未満は一貫して減少しており、平成 24 年時点で 11%。
- ・65 歳以上の人口割合は、類似の矢吹町、棚倉町、西郷村や福島県平均よりも高い。

表 2-2 人口、年代別人口割合の推移

	人口				割合		
	総数 1)	15歳未満	15～64歳	65歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上
S55	21,731	5,168	14,191	2,371	24%	65%	11%
S60	21,727	4,961	14,126	2,640	23%	65%	12%
H2	21,534	4,443	13,960	3,131	21%	65%	15%
H7	21,026	3,926	13,137	3,963	19%	62%	19%
H12	19,914	3,144	12,308	4,462	16%	62%	22%
H17	18,921	2,509	11,572	4,840	13%	61%	26%
H22	17,775	2,074	10,716	4,906	12%	60%	28%
H24	17,306	1,965	10,226	4,874	11%	59%	28%
H30(推定)	15,800	-	-	-	-	-	-

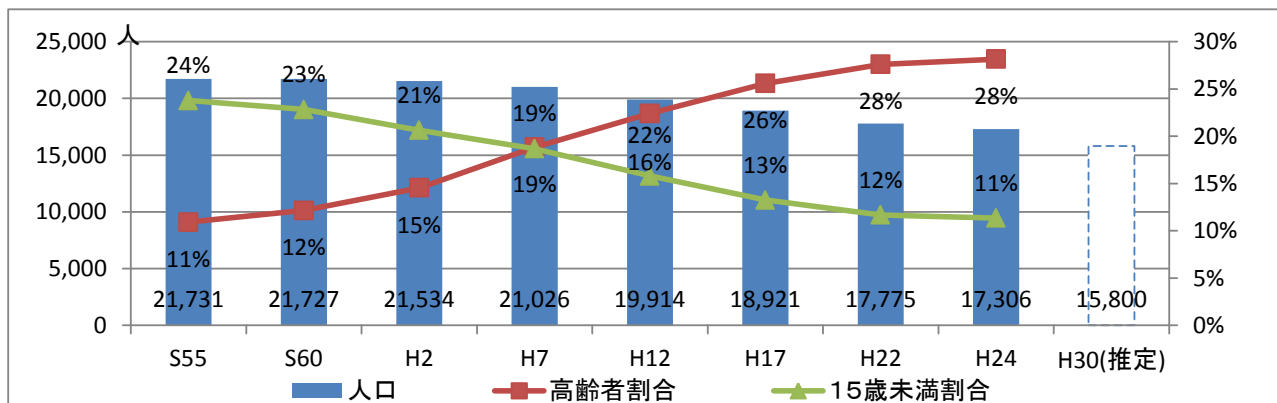


図 2-5 人口、年代別人口割合の推移

資料：(S55～H22) 国勢調査、(H24) 住民基本台帳

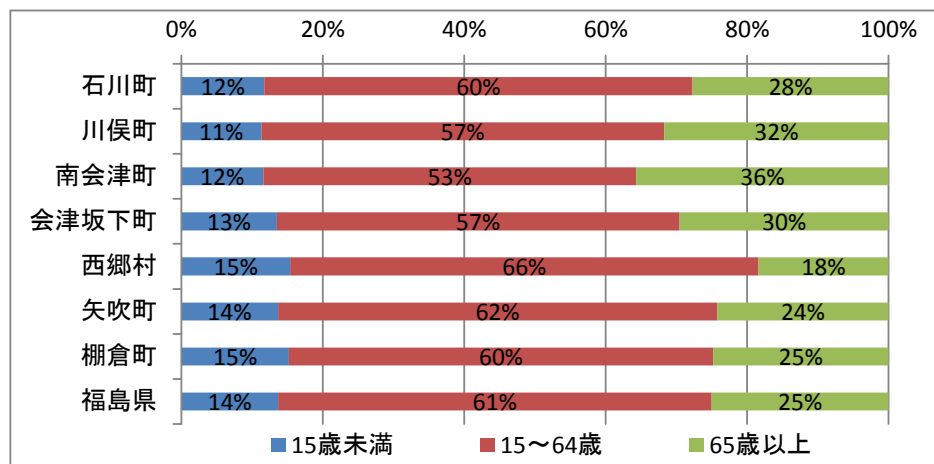


図 2-6 類似都市との年代別人口割合の比較

資料：平成 22 年国勢調査

(2) 人口密度

- ・可住地人口密度は 305 人/ k m^2 であり、類似町村や福島県平均と比べてやや低い。
- ・御斉所街道と（主）飯野三春石川線との交差点を中心に、幹線道路沿道に人口が集中。
このほか、国道、主要地方道、一般県道など幹線道路沿いに人口が集積する一方、幹線道路沿道以外にも集落が点在。

表 2-3 可住地人口密度の比較

	総人口	可住地人口密度
石川町	17,775	305
川俣町	15,569	412
南会津町	17,864	199
会津坂下町	17,360	283
西郷村	19,767	316
矢吹町	18,407	375
棚倉町	15,062	371
福島県	2,029,064	480

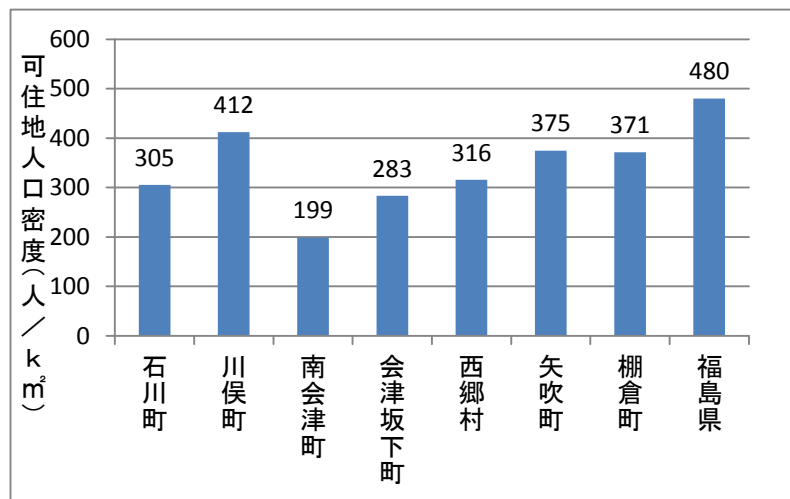


図 2-7 可住地人口密度の比較

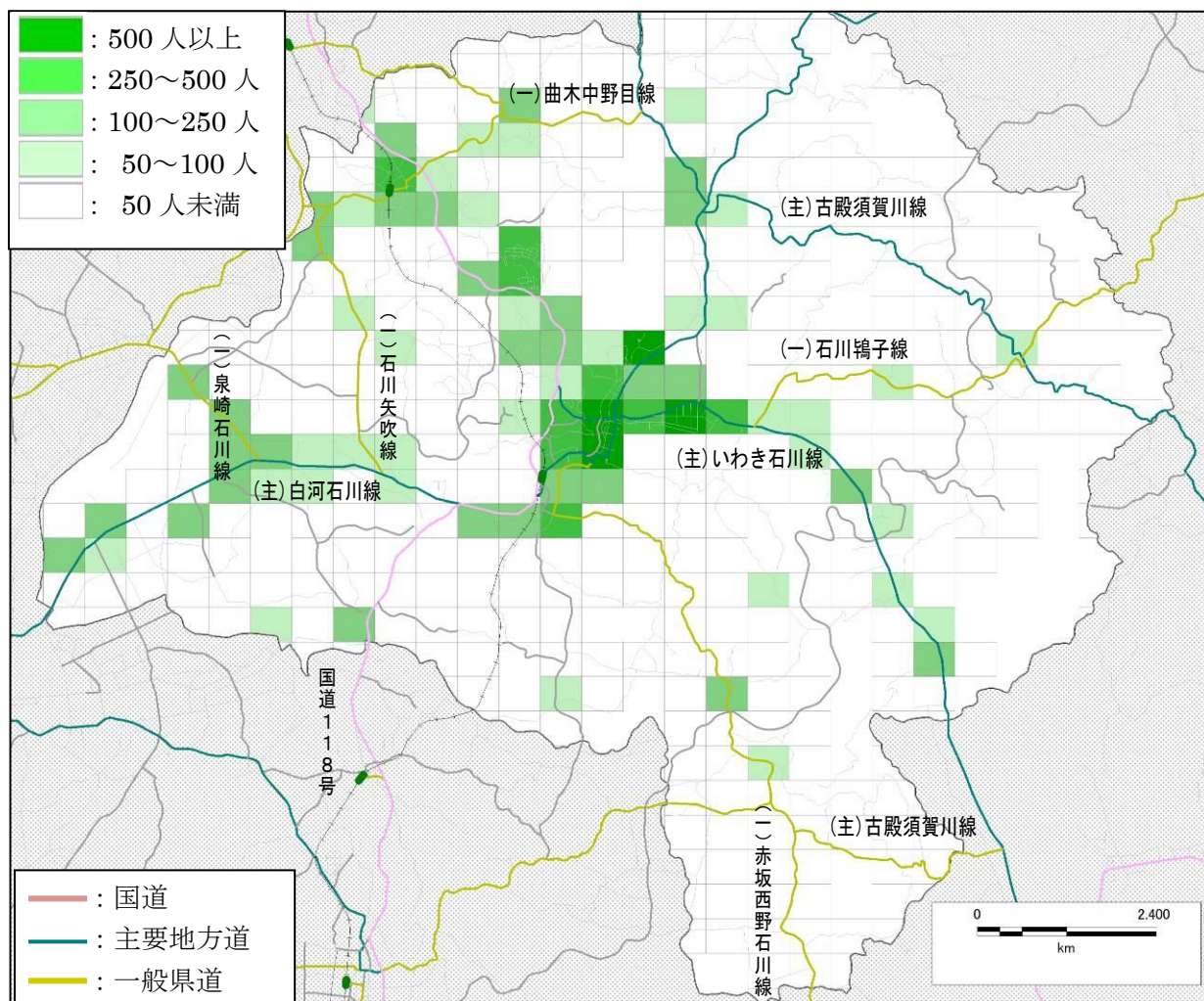


図 2-8 人口の分布 (1メッシュは 500m × 500m)

資料：平成 22 年国勢調査

(3) 世帯数

- ・石川地区に人口の36.6%、世帯の41.1%が居住。母畑地区、山橋地区は人口・世帯数が少ない。
- ・石川町では7.3%の世帯が独居の高齢者世帯であり、類似の多町村と比較して割合は少ない。

表 2-4 地区別人口、世帯数、世帯当たり人数

	人口・世帯数			割合	
	人口	世帯数	世帯当たり人口	人口	世帯数
石川地区	6,196	2,263	2.74	36.6%	41.1%
沢田地区	2,080	568	3.66	12.3%	10.3%
山橋地区	1,612	468	3.44	9.5%	8.5%
中谷地区	3,114	977	3.19	18.4%	17.8%
母畑地区	1,283	404	3.18	7.6%	7.3%
野木沢地区	2,629	821	3.20	15.5%	14.9%
石川町	16,914	5,501	3.07	100.0%	100.0%

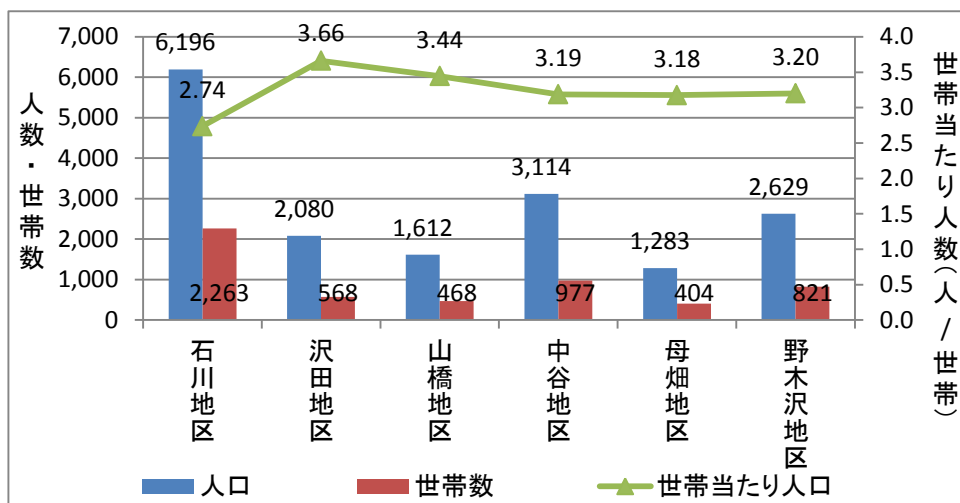


図 2-9 地区別人口、世帯数、世帯当たり人数

表 2-5 世帯数と独居の高齢者世帯の割合

	高齢者がいる世帯割合	独居割合	総世帯数	高齢者がいる世帯	世帯員が1人(独居)
石川町	58.7%	7.3%	5,358	3,145	391
川俣町	61.6%	10.6%	5,173	3,189	548
南会津町	63.4%	13.1%	6,493	4,115	850
会津坂下町	62.8%	9.4%	5,340	3,355	500
西郷村	34.2%	5.1%	6,696	2,288	342
矢吹町	47.2%	7.5%	5,915	2,790	444
棚倉町	53.0%	8.2%	4,696	2,488	384

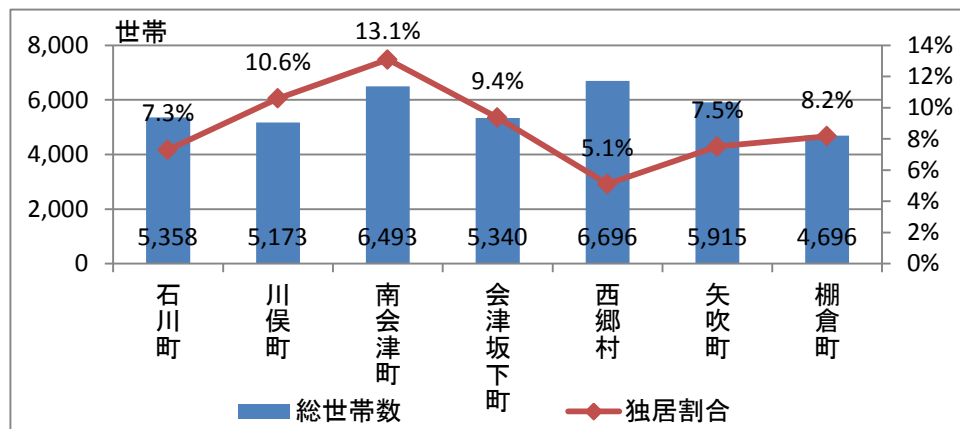


図 2-10 世帯数と独居の高齢者世帯の割合

資料：平成22年国勢調査

2-2-2. 土地利用・施設分布

- 町の西部は農用地、中部や東部は森林の中に農用地が点在、建物用地は幹線道路沿道に分布。
- 医療施設は小規模なものが多く診療科目が限られる。
- 小中学校の統廃合により通学環境の大幅な変化が想定される。

- ・建物用地は幹線道路沿いにある。また町の西部は田やなど農用地が広がり、中部や東部は森林の中に農用地が点在する状態。
- ・町域の約半分が可住地であり、類似市町の中ではその割合は多い。

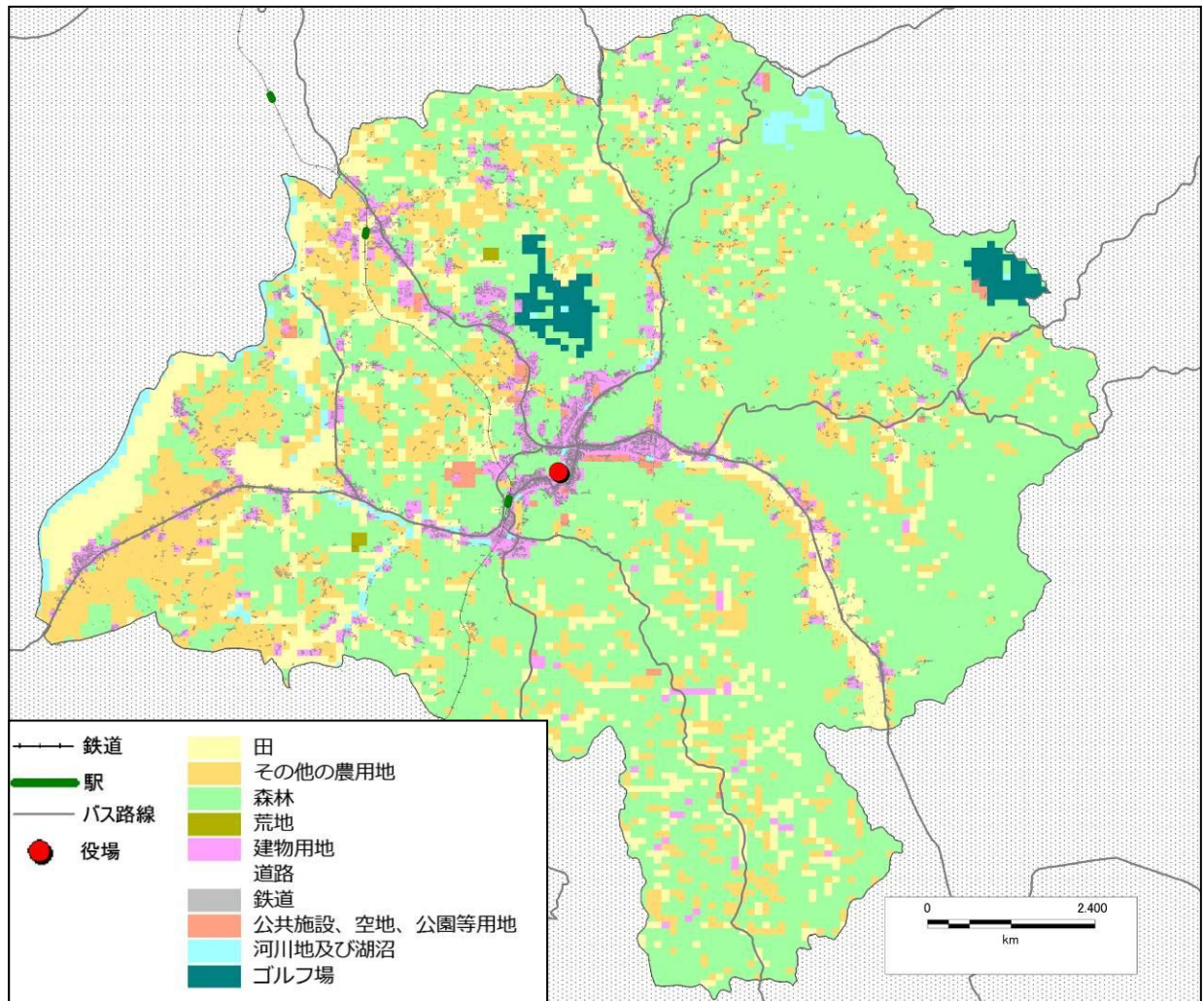


図 2-1-1 土地利用状況

表 2-6 町村域面積と可住地の割合

	総面積	可住地面積	可住地面積割合
石川町	115.71	58.21	50.3%
川俣町	127.66	37.8	29.6%
南会津町	886.52	89.85	10.1%
会津坂下町	91.65	61.29	66.9%
西郷村	192.32	62.56	32.5%
矢吹町	60.37	49.14	81.4%
棚倉町	159.82	40.59	25.4%
福島県	13782.76	4228.58	30.7%

資料：国土数値情報

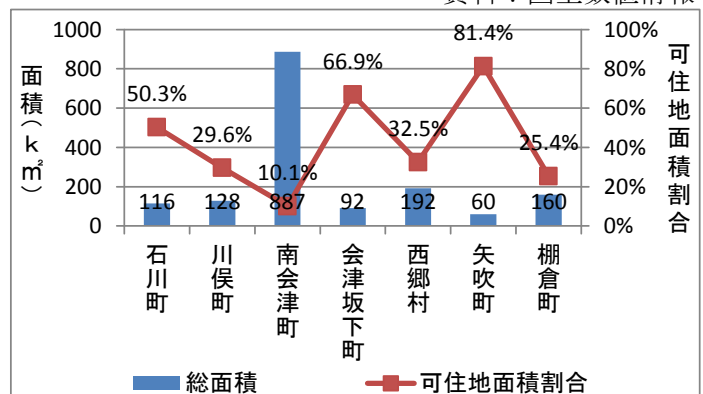


図 2-1-2 可住地面積とその割合

資料：石川町統計書

- ・医療施設は、町内に一般診療所が 9 施設立地。一般病院は立地しておらず、周辺の白河市、須賀川市、矢吹町、棚倉町、平田村の病院を利用する必要がある。
- ・店舗面積 1,000 ㎡以上の大型小売店は町内に 3 店舗立地しており、1 店舗が食料スーパー、2 店舗がホームセンター。
- ・食品スーパーはこの他に 2 店舗立地。また、JA の農産物直売所であるあぶくま安心館が 2 店立地。
- ・高校は、私立学法石川高校と県立石川高校の 2 校と県立石川養護学校が存在。

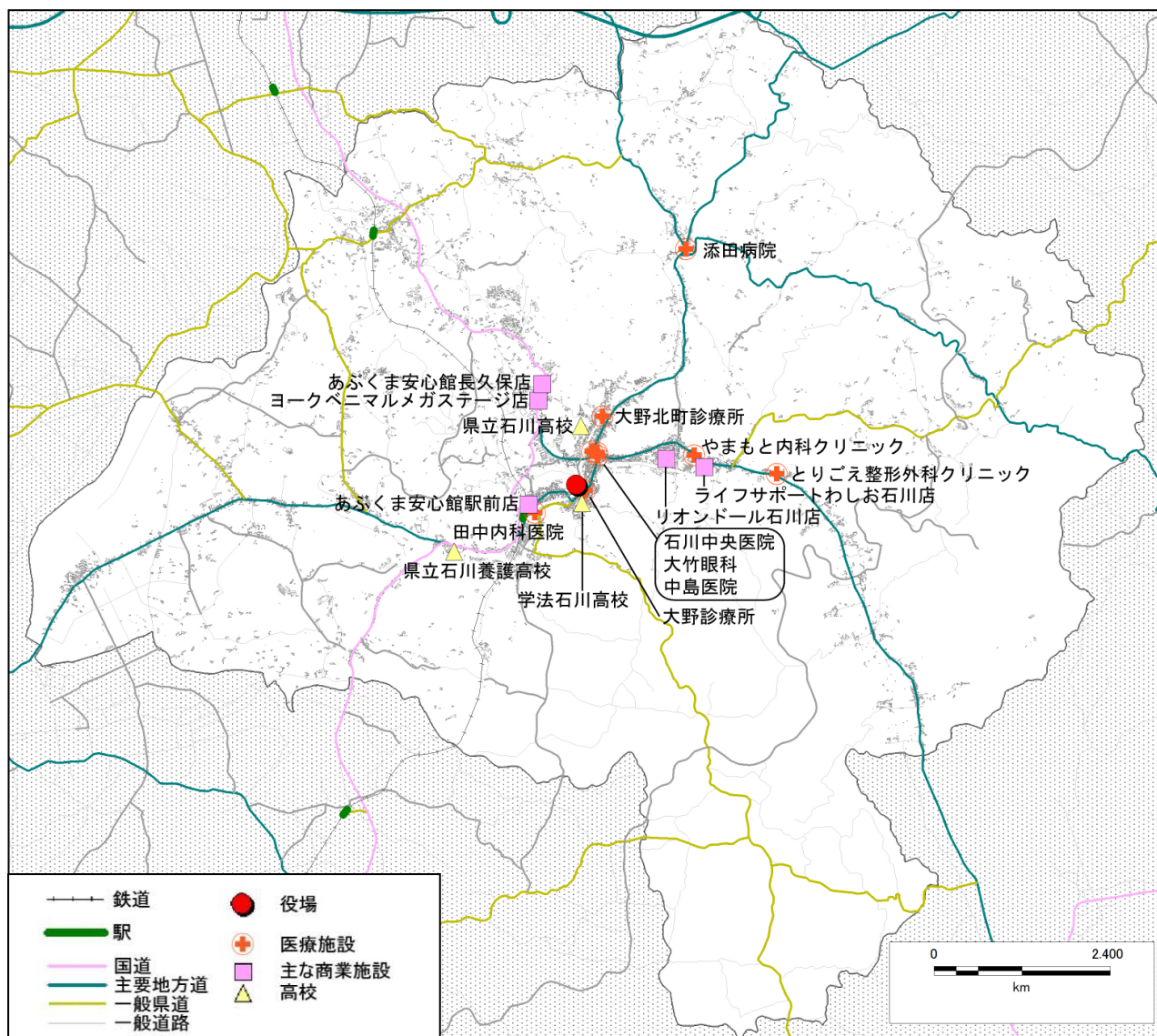


図 2-13 主な施設の分布

表 2-7 町内の医療施設一覧

No.	施設名	診療科目	診療日							診察時間	最寄りバス停
			月	火	水	木	金	土	日祝		
1	石川中央医院	内、呼、循、小	○	○	○	○	○	am	-	8:30-12:30 13:30-17:30	石川新町
2	大竹眼科	眼	○	am	○	○	○	am	-	8:30-12:00 14:00-18:00	石川新町
3	大野診療所		○	○	○	○	am	○	-	月・水・金：8:30-19:00 火：8:30-17:00 金：8:30-12:00 土：8:30-15:00	石川荒町
4	大野北町診療所	内、心内、整、神内	-	-	-	-	○	am	-	8:30-12:00 13:30-17:00	—
5	とりごえ整形外科クリニック	整外、リウ、リハ	○	○	am	○	○	am	-	9:00-12:00 14:00-18:00	大工内
6	添田医院	内	○	-	○	○	○	○	-	8:30-11:30 13:30-17:30	中の湯
7	田中内科医院	内、呼、消、胃、循	○	○	-	○	○	○	-	8:30-12:00 14:00-19:00	—
8	中島医院	内、外、呼、消、 循、小、整外、皮、 泌尿、耳鼻、リハ	○	○	○	○	○	○	-	月～金：8:30-18:00 土：8:30-13:00	新町四ツ角
9	やまもと内科クリニック	内、呼、循、胃、 小、皮	○	○	○	○	○	am	-	9:00-12:30 14:30-16:15	白坂下

※内：内科 呼：呼吸器科 循：循環器科 小：小児科 眼：眼科 心内：心臓内科
 整：整形外科 神内：神経内科 リウ：リウマチ科 消：消化器科
 リハ：リハビリテーション科 胃：胃腸科 皮：皮膚科

表 2-8 町内の主要な商業施設一覧

No.	施設名	営業時間	定休日	最寄りバス停
1	リオンドール石川店	9:00-21:00	-	中学校入口
2	ヨークベニマルメガステージ店	9:30-21:30	-	石川警察署前
3	ライフポートわしお石川店	9:00-21:00	-	北山形入口
4	あぶくま安心館長久保店	10:00～18:00	水	石川警察署前
5	あぶくま安心館駅前店	10:00～18:00	日	当町

表 2-9 町内の高校

名称	始業時間	終業時間	クラブ活動時 終業時間	最寄りバス停	備考
県立石川高校	8:35	15:35	19:00	北町中通り	
学法石川高校	8:30	15:10	18:30前後	石川荒町	少数ではあるが朝練(7:00～)のある生徒も存在
県立石川養護学校	8:50	15:10	16:00	桜ヶ岡	クラブ活動をしている生徒は35%

2-2-3. 財政状況

○財政状況は、類似の他都市よりは良いものの、厳しい状況にある。

- ・町の歳入決算総額は 7,100 百万円。
- ・財政力指数¹は 0.41 であり、近隣の類似の矢吹町、棚倉町よりもやや低い。
- ・経常収支率²は 78.2%であり、類似の町村よりも低いものの、好ましいとされる 78%は超えている。

表 2-10 財政状況の比較

町村名	歳入決算総額(百万円)	財政力指数	経常収支比率
石川町	7,143	0.41	78.2%
川俣町	7,415	0.35	86.9%
南会津町	13,420	0.24	86.3%
会津坂下町	7,949	0.36	90.8%
西郷村	7,966	1.27	80.4%
矢吹町	7,694	0.52	83.5%
棚倉町	5,877	0.57	78.7%

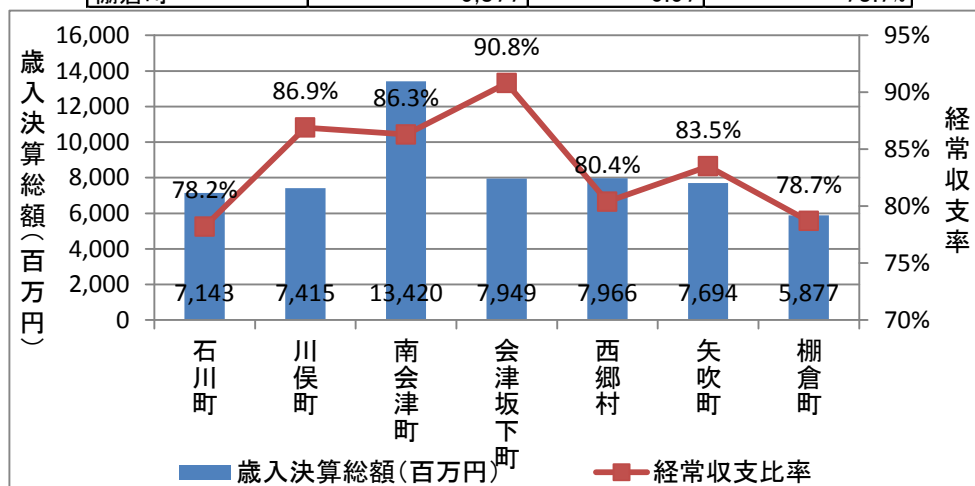


図 2-14 歳入と経常収支比率の比較

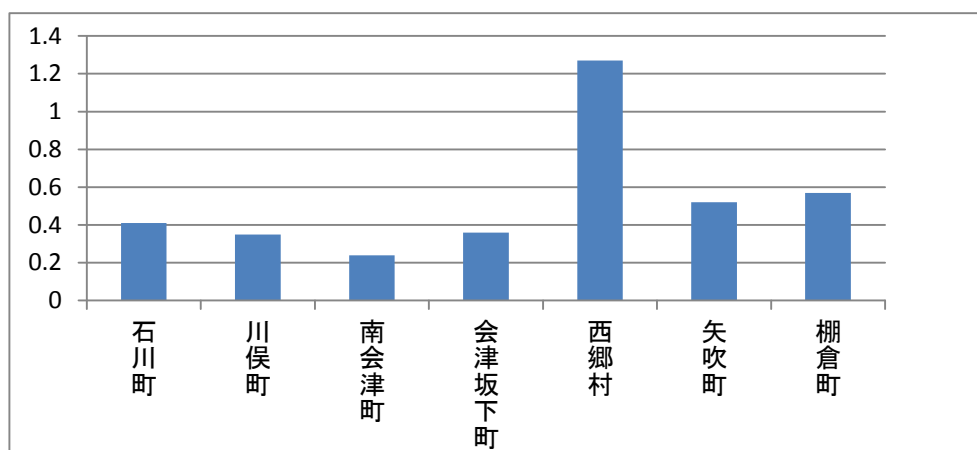


図 2-15 財政力指数の比較

¹ 財政力指数：標準的な行政を行う場合に必要な一般財源額（基準財政需要額）のうち、どの程度地方税等の収入（基準財政収入額）でまかなえるかを示したもの。（財政力指数＝基準財政収入額÷基準財政需要額【3年平均】）

² 経常収支率：財政構造の弾力性を測定する指標。低ければ低いほど財政運営に弾力性があり、政策的に使えるお金が多くあることを示している。少なくとも 75%程度におさまることが妥当であり、80%を超える場合は財政構造は弾力性を欠いているとされてきた。

2-3. 交通特性

2-3-1. 道路交通特性

○石川町内の国県道路は、中心市街地から周辺部に放射状に整備されており、混雑は少ない。
○ほぼ1人に1台自動車を保有。

(1) 道路の配置

- ・本町には、国道が1路線、主要地方道が4路線、一般県道が7路線通っている。
- ・国道118号（石川街道）は、本町と浅川村、棚倉町、玉川村、須賀川市を結んでおり、中心市街地の西側を南北に通っている。
- ・主要地方道のうち、(主)白河石川線（御斉所街道）、(主)いわき石川線（御斉所街道）、(主)飯野三春石川線は中心市街地を通る路線である。
- ・(主)古殿須賀川線は、母畑地区以东の区間が1車線で幅員が狭い。

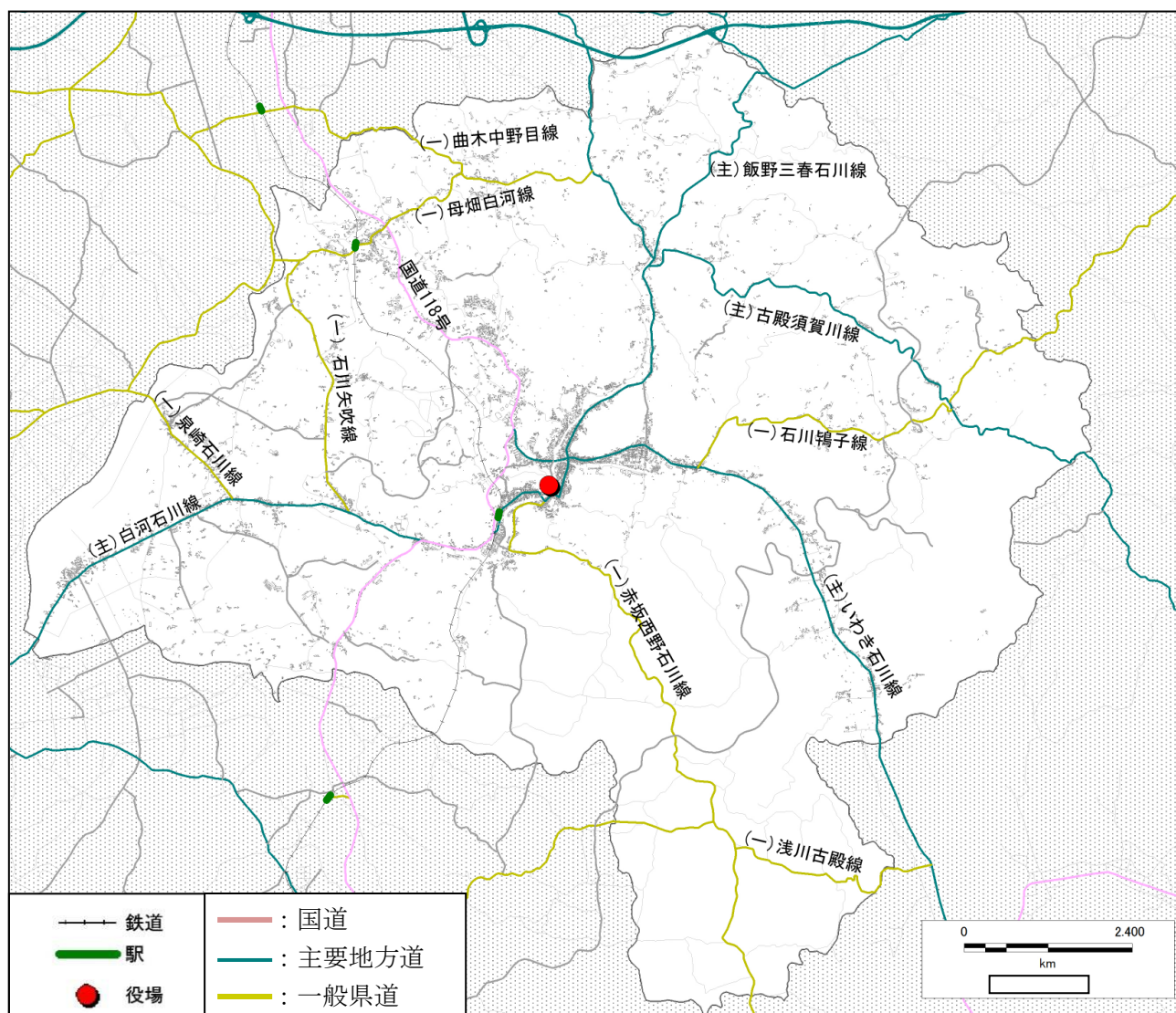


図 2-16 道路網図

(2) 道路の混雑状況

- ・本町の国道、主要地方道、一般県道では、混雑時においても旅行速度は 20km/h 以上である。

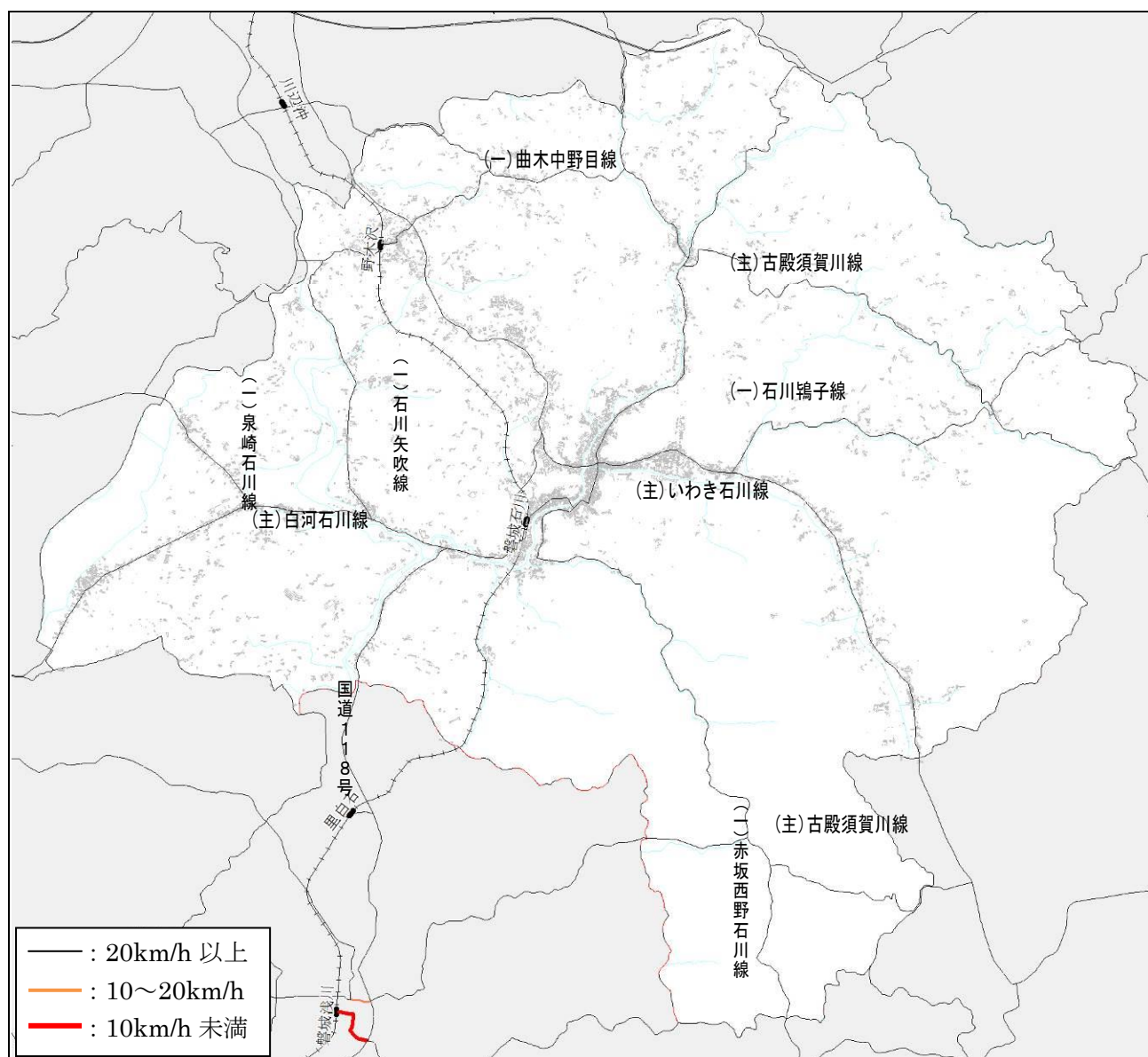


図 2-17 混雑時平均旅行速度

資料：H 2 2 道路交通センサス

(3) 自動車保有台数

- ・自動車保有台数は0.83台/人であり、矢吹町や棚倉町と同程度で福島県平均より高い。

表 2-11 自動車保有台数の比較

	保有車両数	人口	一人当たり 保有台数
石川町	14,718	17,775	0.83
川俣町	12,506	15,569	0.80
南会津町	15,044	17,864	0.84
会津坂下町	13,984	17,360	0.81
西郷村	17,057	19,767	0.86
矢吹町	15,204	18,407	0.83
棚倉町	12,723	15,062	0.84
福島県	1,598,443	2,029,064	0.79

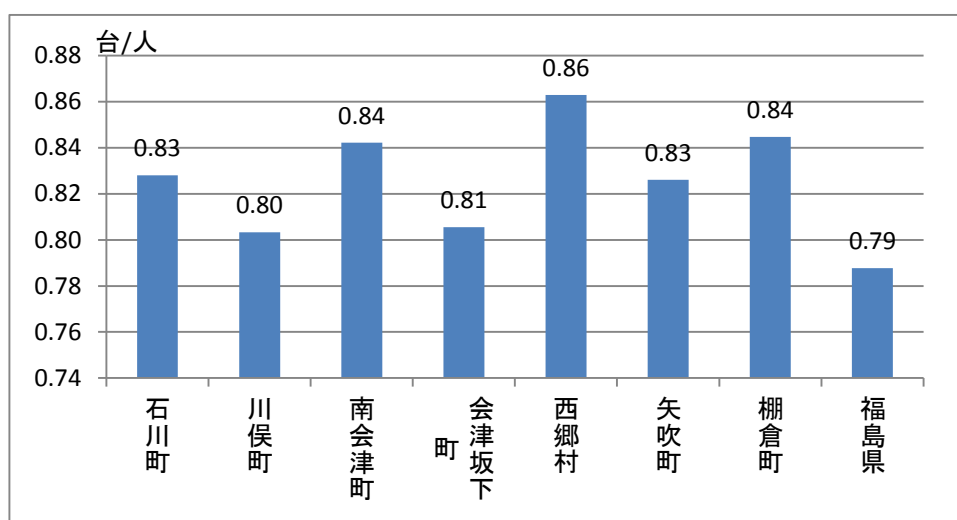


図 2-18 自動車保有台数の比較

2-3-2. 公共交通特性

(1) 地域公共交通の運行概要

- 地域公共交通は、鉄道、バス、タクシーがある。
- バスは 12 系統と多いが、すべて国県道路を放射状に通っているため、バス停から遠く利用できない町民も存在。
- バスは、国、県、町から補助を得て維持されているが、補助制度の規定により、今後の町の補助額は大幅に増加することが懸念されている。

①地域公共交通の概況

- ・町内には、JR 水郡線（2 駅）と福島交通の路線バス 11 路線、町運営の廃止代替バス 1 路線が運行。このほか、タクシー会社が 2 社運営。
- ・路線バスは、主に国県道路を通っており、石川町中心部を起点に周辺市町へ放射状に路線が伸びている。

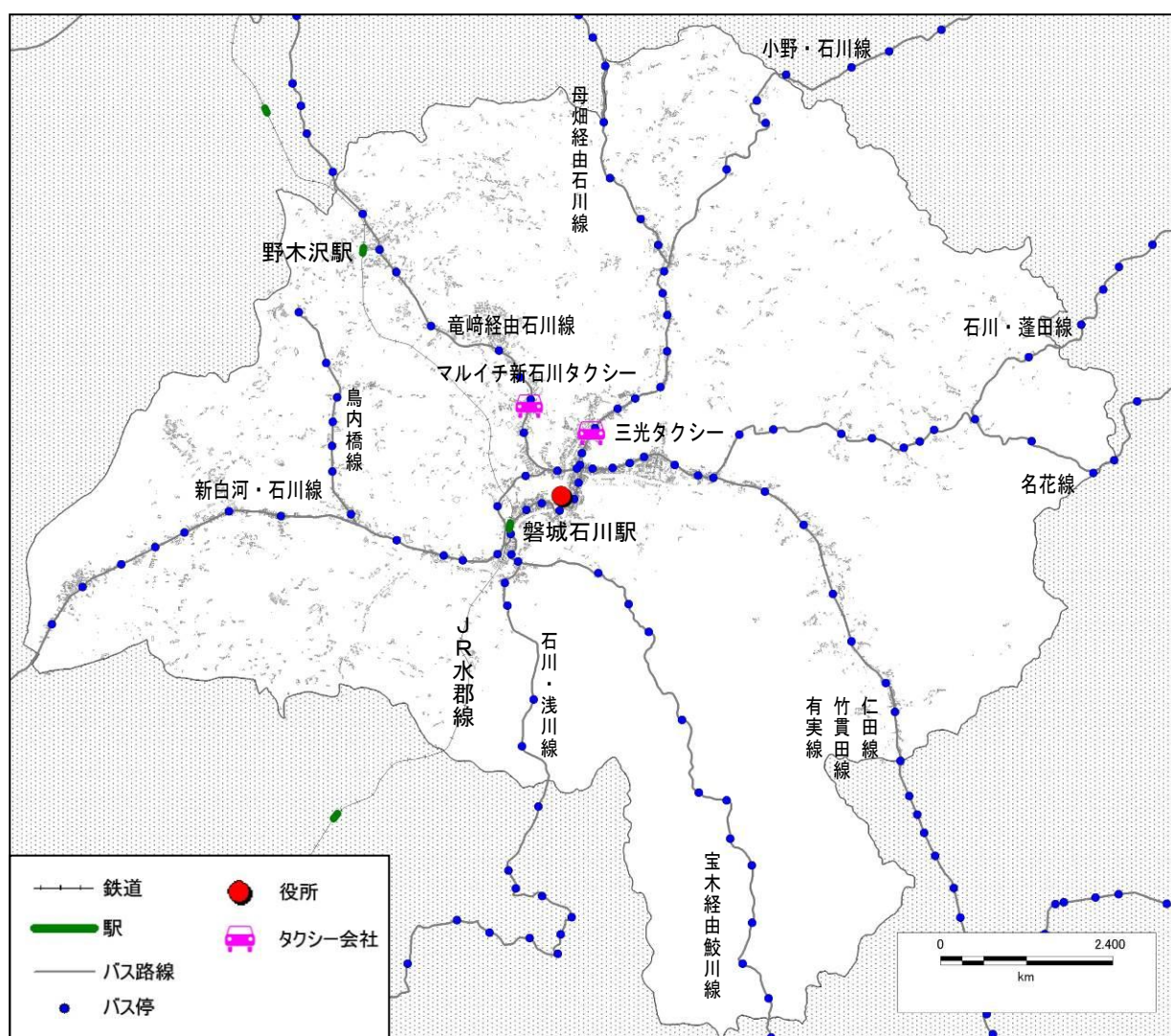


図 2-19 地域公共交通の状況

-
- : 500人以上
 ■ : 250～500人
 ■ : 100～250人
 ■ : 50～100人
 □ : 50人未満
 — : バス路線
 ● : バス停
 ○ : 鉄道・バス利用圏
- : 鉄道・駅利用圏に入らない地域
 (1メッシュ人口50人以上)

図 2-20 鉄道駅、バス停の利用圏と人口の分布

17

②鉄道の運行状況

- ・JR 水郡線は、水戸方面に 9 本/日、郡山方面に 11 本/日運行。
- ・郡山駅までの所要時間は 45~50 分で、運賃は片道 740 円。水戸駅までは、160 分、1,890 円。

表 2-12 JR 水郡線の時刻表 (H25.10 時点)

		1便	2便	3便	4便	5便	不定期	6便	7便	8便	9便	10便
水戸	発				7:27	9:22	11:14					
常陸大子	着				8:50	10:37	12:34					
	発		5:43	6:57	9:05	10:43	12:44	14:36	15:38	16:35	17:53	20:25
磐城石川	着		6:48	7:59	10:03	11:43	13:46	15:34	16:38	17:36	18:54	21:24
	発	5:55	6:56	8:01	10:04	11:46	13:48	15:35	16:47	17:37	19:02	21:25
郡山	着	6:42	7:47	8:46	10:50	12:33	14:41	16:26	17:39	18:23	19:48	22:14

		1便	2便	3便	不定期	4便	5便	6便	7便	8便	9便	
郡山	発	6:06	7:11	9:18	11:59	13:49	15:55	16:49	18:17	19:45	21:26	
磐城石川	着	6:53	7:58	10:03	12:46	14:32	16:38	17:33	19:02	20:30	22:09	
	発	6:54	8:00	10:13	12:47	14:33	16:39	17:47	19:03		22:10	
常陸大子	着	7:58	8:58	11:17	13:47	15:36	17:38	18:53	20:02			
	発	8:10		11:23		15:38	17:48	19:05	20:25			
水戸	着	9:30		12:39		16:55	19:05	20:41	21:44			

資料：JR 東日本ホームページ

③バスの運行状況

- ・路線バスは、石川駅前・石川営業所を起終点に、白河駅、須賀川駅、小野駅、浅川、清水内など周辺市町村と連絡するよう運行されており、1 日 2~7 往復運行。
- ・起終点が石川町内である鳥内橋線以外は、営業キロが 15 km以上の長距離路線となっている。

表 2-13 バスの運行状況概要

系統名	運営主体	起点	経由	終点	営業キロ	運行本数 (平日)	関係市町村		
竜崎経由石川	福島交通株式会社	石川営業所	竜崎	須賀川駅前	24.5km	5.5往復	石川町	玉川村	須賀川市
母畑経由石川		石川駅前	母畑	須賀川駅前	26.7km	7.0往復	石川町	玉川村	須賀川市
新白河・石川		新白河駅前	刈敷坂	石川営業所	29.3km	7.0往復	石川町	中島村	白河市
石川・蓬田		石川駅前	平田役場	清水内	26.6km	4.0往復	石川町	平田村	
仁田		石川駅前	古殿町役場	仁田	26.8km	3.0往復	石川町	古殿町	
竹貫田		石川駅前	古殿町役場	竹貫田車庫	30.1km	4.0往復	石川町	古殿町	
宝木経由鮫川		石川営業所	西山	湯の多温泉	21.2km	4.0往復	石川町	鮫川村	
小野・石川		石川駅前	清水内	小野新町駅前	32.9km	4.0往復	石川町	平田村	小野町
名花		石川駅前	矢造	上鵜巣	17.2km	2.0往復	石川町	古殿町	
鳥内橋		鳥内橋	石川駅前	石川営業所	8.0km	3.0往復	石川町		
有実		石川駅前	古殿町役場	有実上	27.5km	2.0往復	石川町	古殿町	
石川・浅川	石川町	石川営業所	須沢	浅川車庫	15.0km	3.0往復	石川町	浅川町	

- ・路線バスのうち8路線は、平成24年度被災地域生活交通確保維持路線であり、国県補助の対象。
- ・路線バス及び自主運行バスへの町の補助は約28百万円（H24）。
- ・平成27年度（平成26年10月～9月の運行が対象）以降は、被災地の特例がなくなり、他地域と同様の制度運用となるが、その場合、町の補助は37百万円と想定される（34%増）。
- ・加えて、被災地の特例が適用されない場合、国や県から現在と同程度の補助を受けるためには、輸送量が15人以上でなければならない。そのため、現状と利用状況が変わらない場合、新白川・石川線以外の路線で国・県補助が受けられなくなる。（約48,000千円が補助対象外）

表 2-14 路線別収支率と補助内訳

路線名	輸送量	収支率	経常収益 (千円)	経常費用 (千円)	補助(被災地特例の場合)			石川町補助 (現状)	石川町補助 (特例無)	特性無 /現状
					県補助	国補助	市町村補助			
竜崎経由石川	7.2	31.6%	7,811	24,701	3,677	3,677	9,536	3,671	4,328	1.18
母畑経由石川	10.1	32.8%	11,399	34,763	7,931	7,931	7,503	2,709	5,229	1.93
新白河・石川	15.0	44.0%	17,462	39,646	6,925	6,925	8,335	3,146	4,409	1.40
石川・蓬田	3.6	21.6%	3,673	17,035	1,101	1,101	11,162	3,761	3,696	0.98
仁田	10.3	64.7%	8,692	13,430	1,992	1,992	753	221	1,153	5.22
竹貫田	5.1	31.0%	6,986	22,548	1,209	1,209	13,144	3,905	3,678	0.94
宝木経由鮫川	4.8	30.1%	4,550	15,110	5,142	5,142	277	105	3,122	29.83
小野・石川	5.7	26.6%	5,539	20,841	2,853	2,853	9,596	2,507	3,964	1.58
名花	2.2	37.8%	1,873	4,956	-	-	3,083	1,400	1,400	1.00
鳥内橋	1.3	24.8%	712	2,870	-	-	2,157	2,157	2,157	1.00
有実	3.5	36.0%	4,426	12,294	-	-	7,868	2,404	2,404	1.00
石川・浅川	1.2	10.4%	699	6,718	-	-	6,019	1,878	1,878	1.00
合計	70.0	34.3%	73,822	214,912	30,828	30,828	79,434	27,864	37,419	1.34

特定ない場の、国
県補助の規定（15
人）以下の路線

特定ない場合、輸送量
が少なく補助対象外

特定がない場
合 34%増

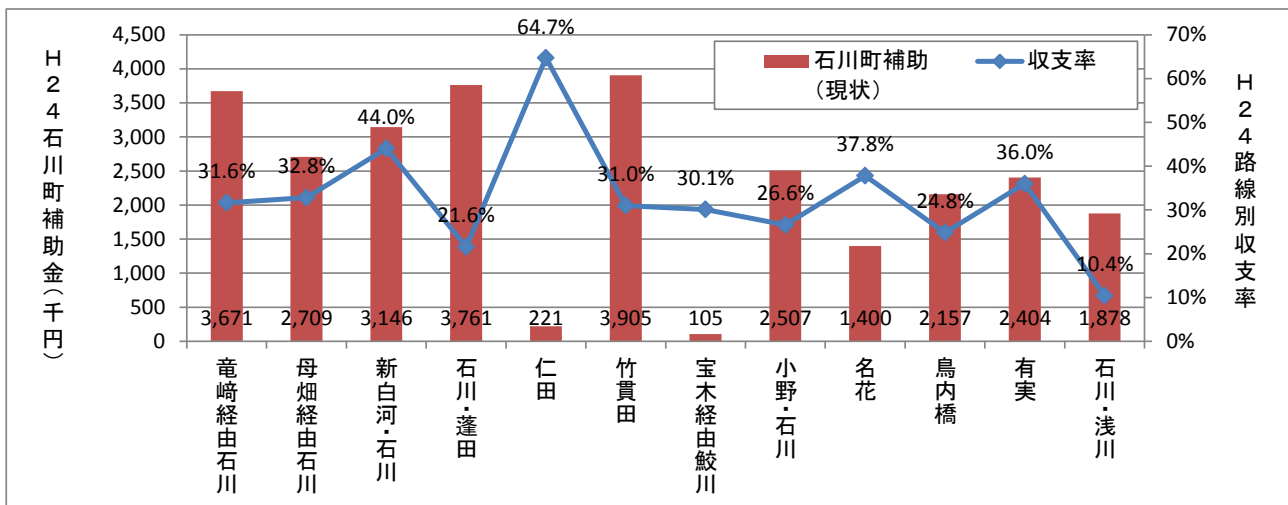


図 2-21 路線別収支率と補助内訳

石川町資料

(2) 地域公共交通の利用状況

- 鉄道利用は、通勤・通学が大部分であるが、近年は利用が減少傾向にある。
- バス利用者数は、近年は横ばいだが、12路線で1日300人程度の乗降者と利用自体が多くない。
- タクシーは、近年利用者数が大きく減少。

①鉄道の利用状況

- ・JR水郡線のうち、磐城石川駅は一日平均545人乗車。野木沢駅は無人駅。(H23)
- ・乗車人員は650人程度であったが、平成20以降減少傾向にあり、平成23年は平成14年に比べて17%乗車人員が減少。
- ・利用は大部分が通学であるが、駅周辺に自動車を駐車し鉄道に乗り換えて通勤している町民も存在。(パーク&ライド)

表 2-15 磐城石川駅の乗車人員の推移

	年乗車人員(千人)	1日平均(人/日)	対H14比	日数
H14	240	658		365
H15	239	655	1.00	365
H16	238	650	0.99	366
H17	243	666	1.01	365
H18	235	644	0.98	365
H19	244	668	1.02	365
H20	239	653	0.99	366
H21	224	614	0.93	365
H22	214	586	0.89	365
H23	199	545	0.83	365

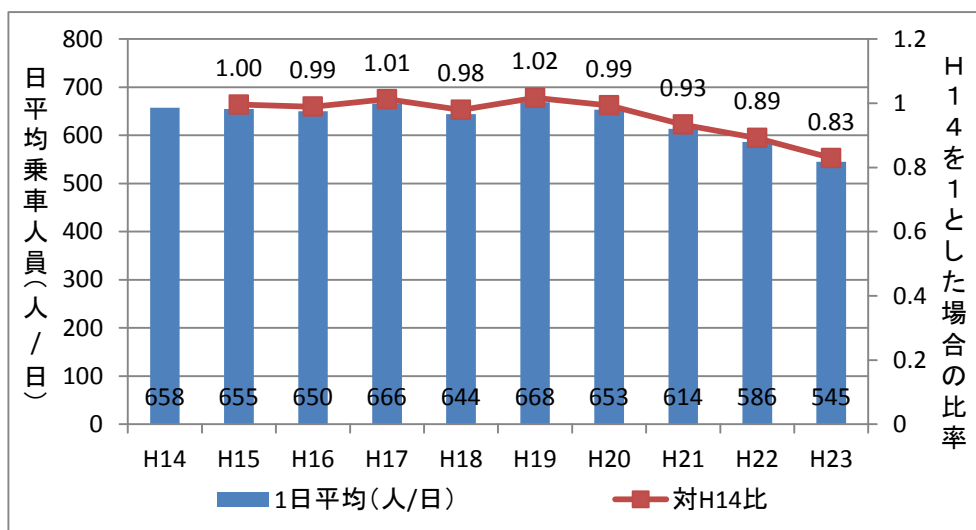


図 2-22 磐城石川駅の乗車人員の推移

磐城石川駅ヒアリング結果

- ・町内の駅（磐城石川駅、野木沢駅）は9割が学生の利用。
- ・通学では、学法石川高校、県立石川高校、県立石川養護学校、光南高校（矢吹町）の生徒が利用。光南高校は磐城石川駅までスクールバスを運行している。
- ・町内からは、郡山方面の高校のほか、修明高校（元県立農業高校）、塙工業高校への通学が若干名存在。
- ・磐城石川駅及び野木沢駅周辺の駐車場はよく利用されていることから、パーク&ライドによる通勤利用があると考えられる。

②バスの利用状況

1) 利用者数

- ・路線バスの全線の乗降客数は、1日約950人。仁田線、竹貫田線、母畑経由石川線、新白河・石川線、竜崎経由石川線の利用が多い。
- ・乗降者数の多い仁田線、竹貫田線、新白河・石川線の石川町内の利用は3割程度、竜崎経由石川線、母畑経由石川線は2割以下となっている。
- ・石川町の乗降割合が多い鳥内橋線、名花線、宝木経由鮫島線、石川・蓬田線、石川・浅川線は、いずれも前線の乗降客数が50人/日以下と少ない。

表 2-16 バス利用者数 (H24.11.1～7)

路線名	石川町					全線	備考
	乗降者数	乗車数	降車数	降車/乗車	石川町割合	乗降者数	
竜崎経由石川	17	9	8	0.8	18.4%	93	石川駅前～野木沢北口
母畑経由石川	17	12	5	0.4	13.7%	124	石川駅前～藤越坂
新白河・石川	35	22	13	0.6	31.2%	113	石川営業所～林
石川・蓬田	27	12	14	1.2	65.4%	41	石川駅前～小林
仁田	55	31	24	0.8	29.6%	187	石川駅前～坂路東口
竹貫田	42	21	21	1.0	26.8%	155	石川駅前・石川営業所～坂道東口
宝木経由鮫川	36	17	19	1.1	75.8%	47	石川営業所～井戸入
小野・石川	15	7	8	1.2	20.3%	76	石川駅前～母畑レークサイド前
名花	18	7	11	1.7	77.4%	23	石川駅前～泥の草入口
鳥内橋	16	8	8	1.0	100.0%	16	全線
有実	14	8	6	0.8	20.8%	67	石川駅前・石川営業所～坂道東口
石川・浅川	7	3	4	1.4	65.3%	10	石川営業所～松森
全路線計	299	157	142	0.9	31.4%	953	

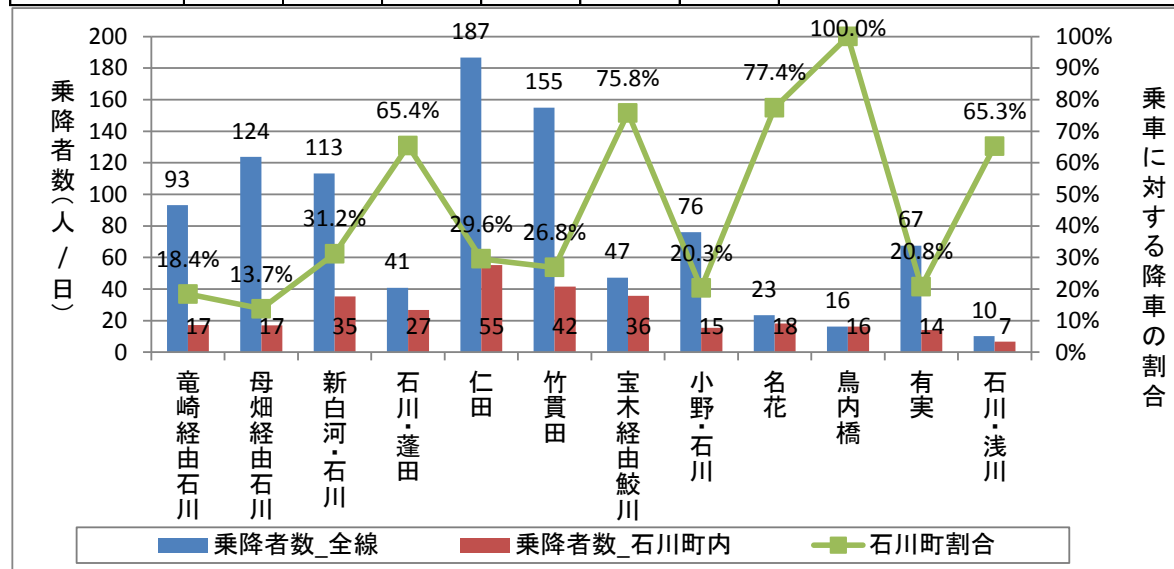


図 2-23 バス利用者数 (H24.11.1～7)

福島交通株式会社ヒアリング結果

- ・利用は大部分が通学利用であり、通院や買い物は少ない。
- ・利用者数は、ここ数年は横ばい状態である。

2) 利用状況

a) 竜崎経由石川線

- ・石川町行きは、須賀川市、玉川村内での利用が大部分であり、石川町内での利用は少ない。
- ・須賀川市行きは、石川町内でも利用はあり、石川営業所から三芦間で乗車し、鹿の坂から塩沢西口間で降車している。

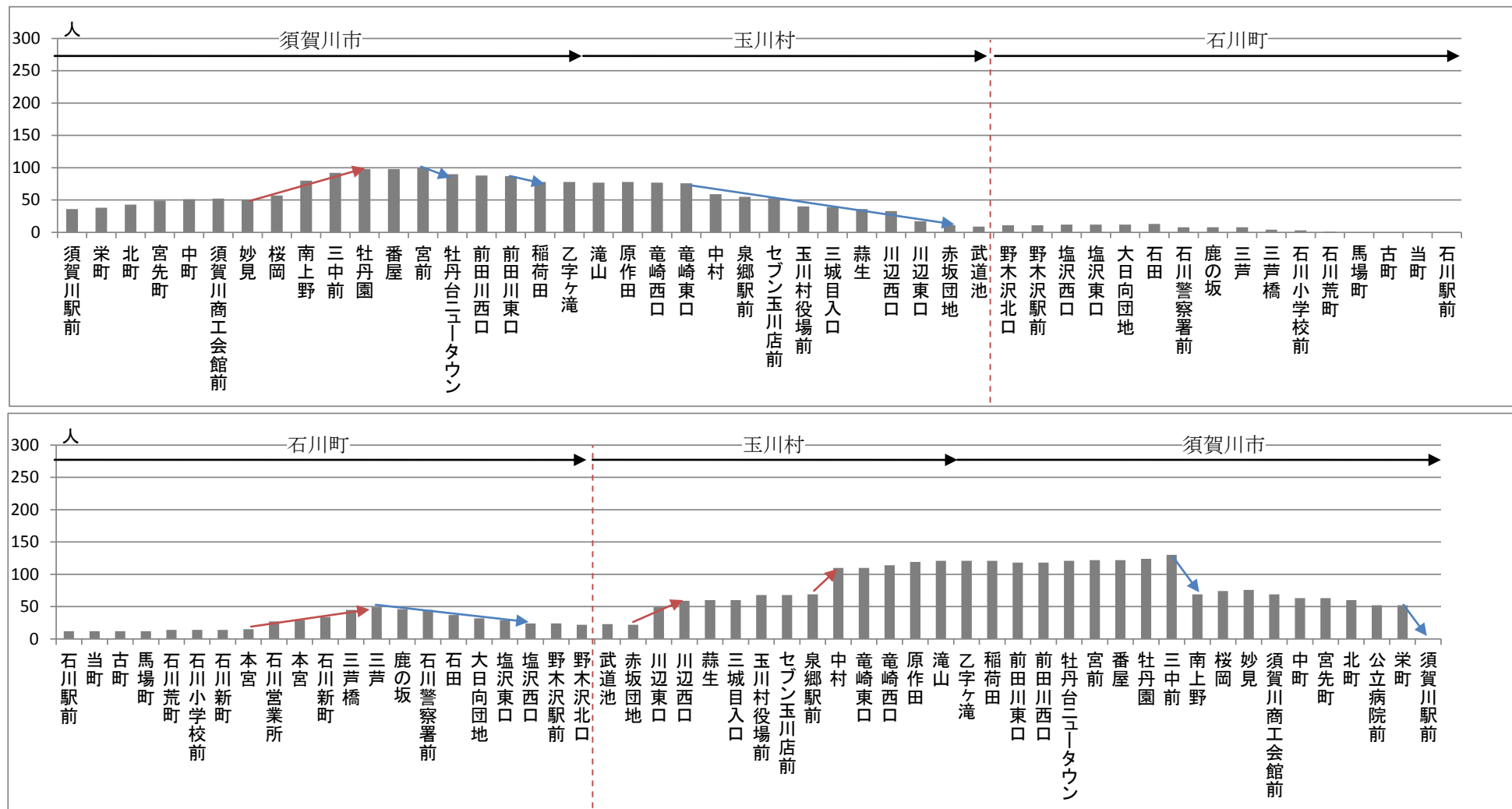


図 2-24 竜崎経由石川の乗降状況 (H24.11.1~7)

b) 母畑經由石川線

- ・石川町行きは、須賀川駅、玉川村内での利用が大部分であり、石川町内での利用は少ない。
- ・須賀川市行きは、石川駅前で乗車し、その後の乗り降りは多くなく、須賀川市で乗降がある。

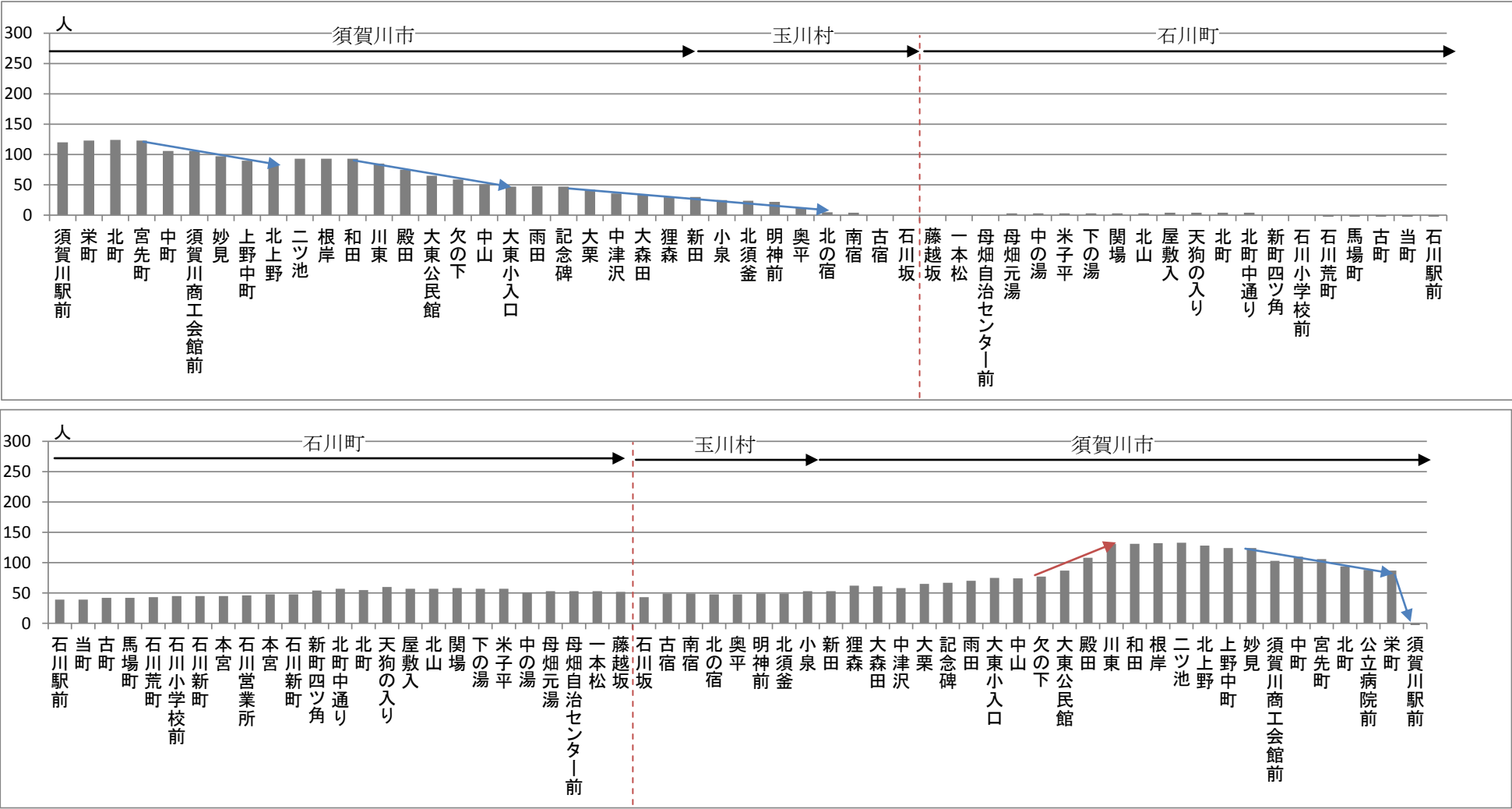


図 2-25 母畑經由石川線の乗降状況 (H24.11.1~7)

c) 新白河・石川線

- ・石川町行きは、白河市内で乗車した利用者が、上の原から学校前間、石川駅前から石川小学校前で降車している。
- ・白河市行きは、石川小学校から松の木下間、学校前から赤羽間で乗車し、白河市内で降車している。

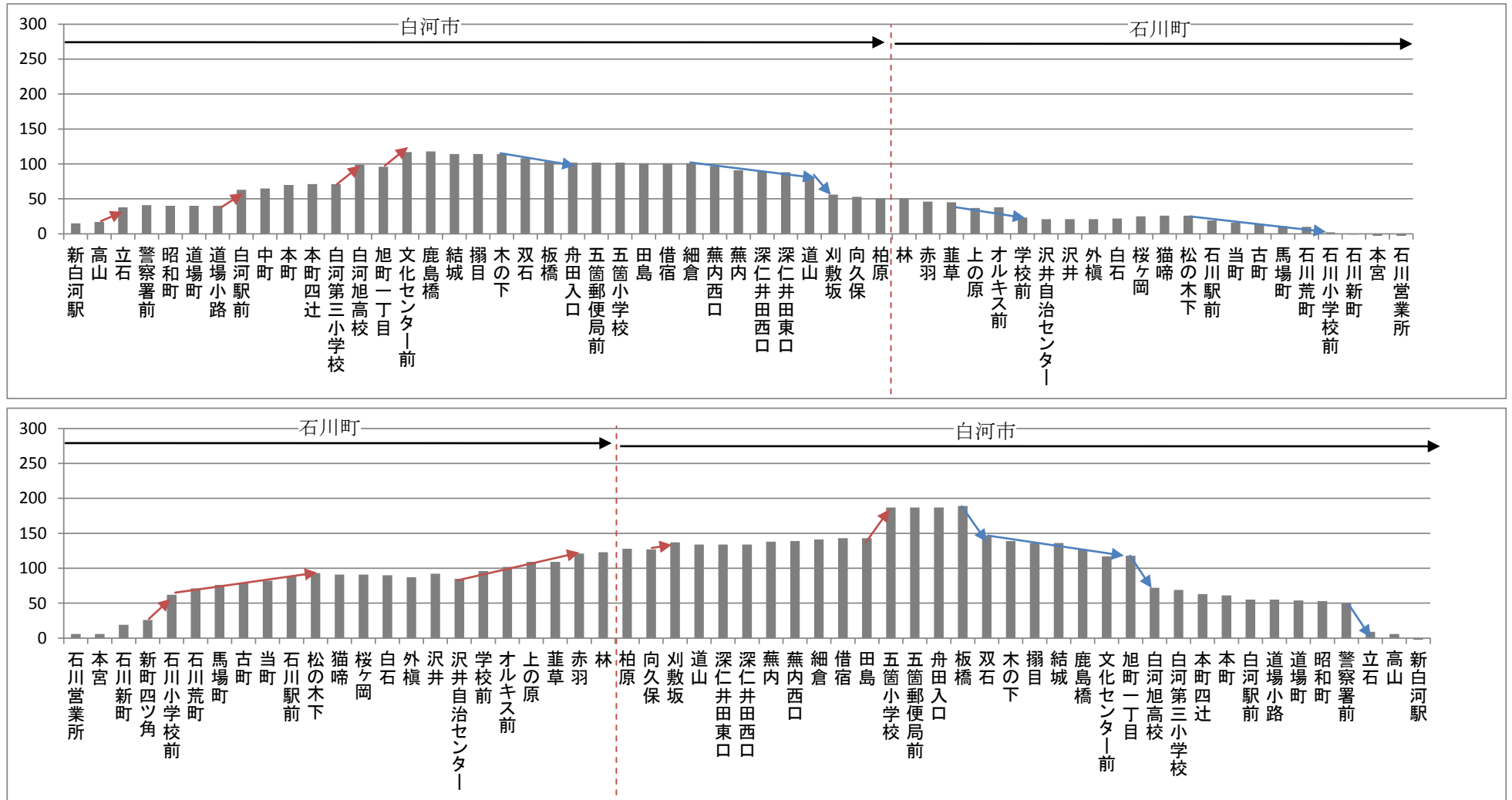


図 2-26 新白河・石川線の乗降状況 (H24.11.1~7)

d) 石川・蓬田線

- ・平田村行きは、石川荒町から中学校入口間で乗車し、矢造や平田村内で降車している。
- ・石川町行きは、大塚や高野で乗車し白坂下から石川荒町間で降車している。

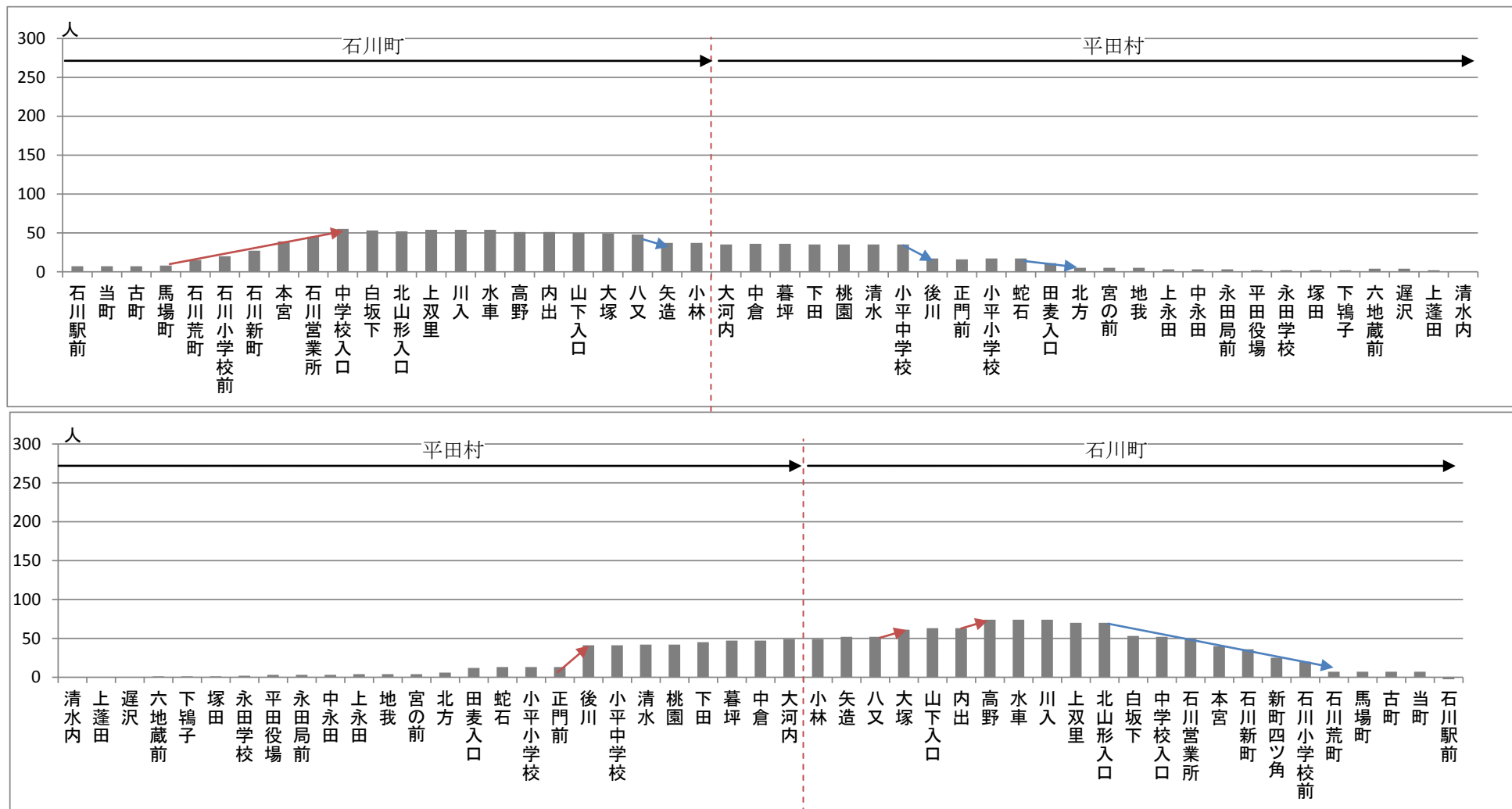


図 2-27 石川・蓬田線の乗降状況 (H24.11.1~7)

e) 仁田線

- ・古殿町行きは、石川荒町から中学校下、形見から下の内で乗車し、谷沢から坂路東口間や古殿町で降車している。
- ・石川町行きは、古殿町や坂路西口から谷沢間で乗車し、白坂下から石川荒町間で降車している。

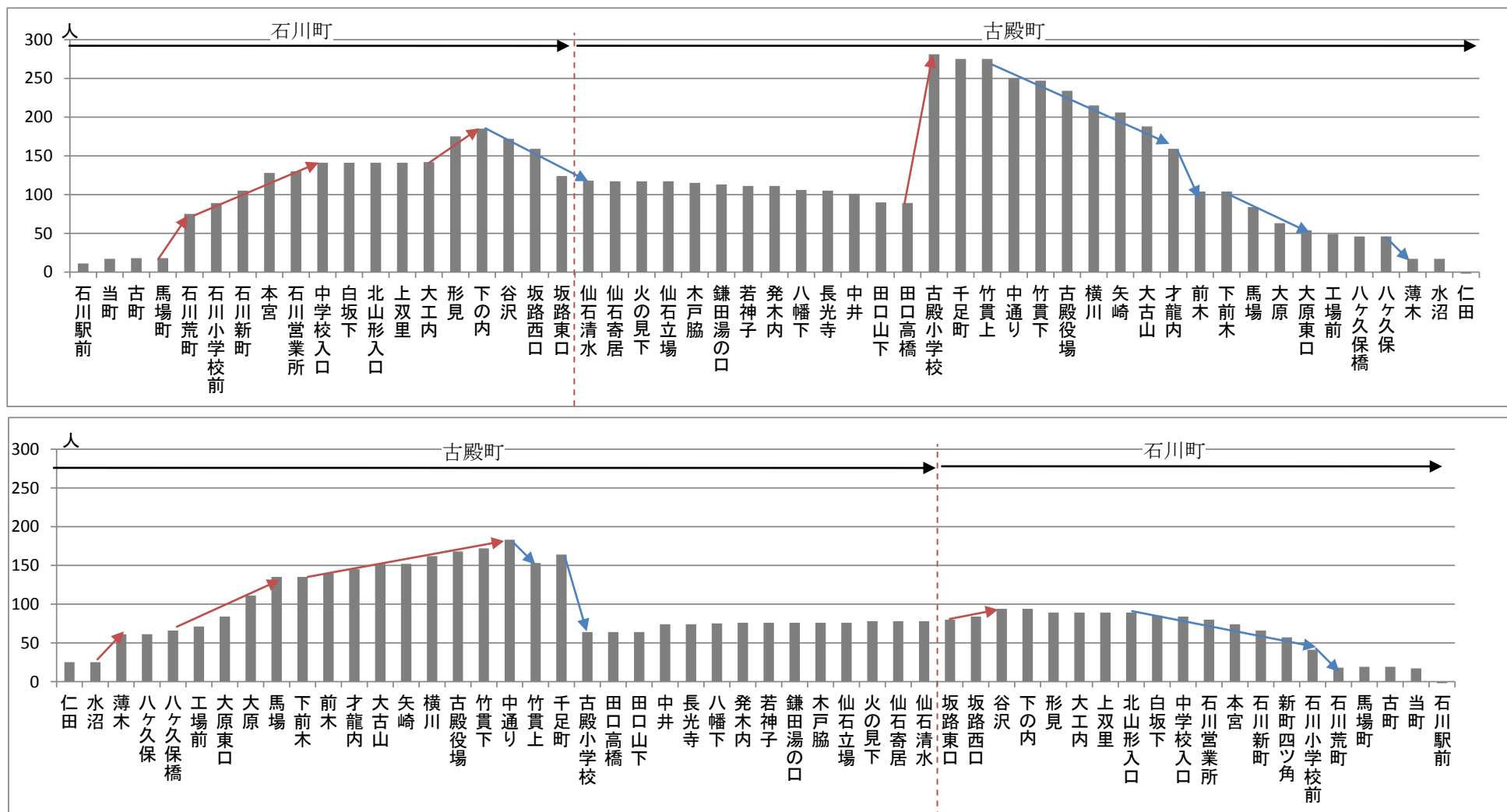
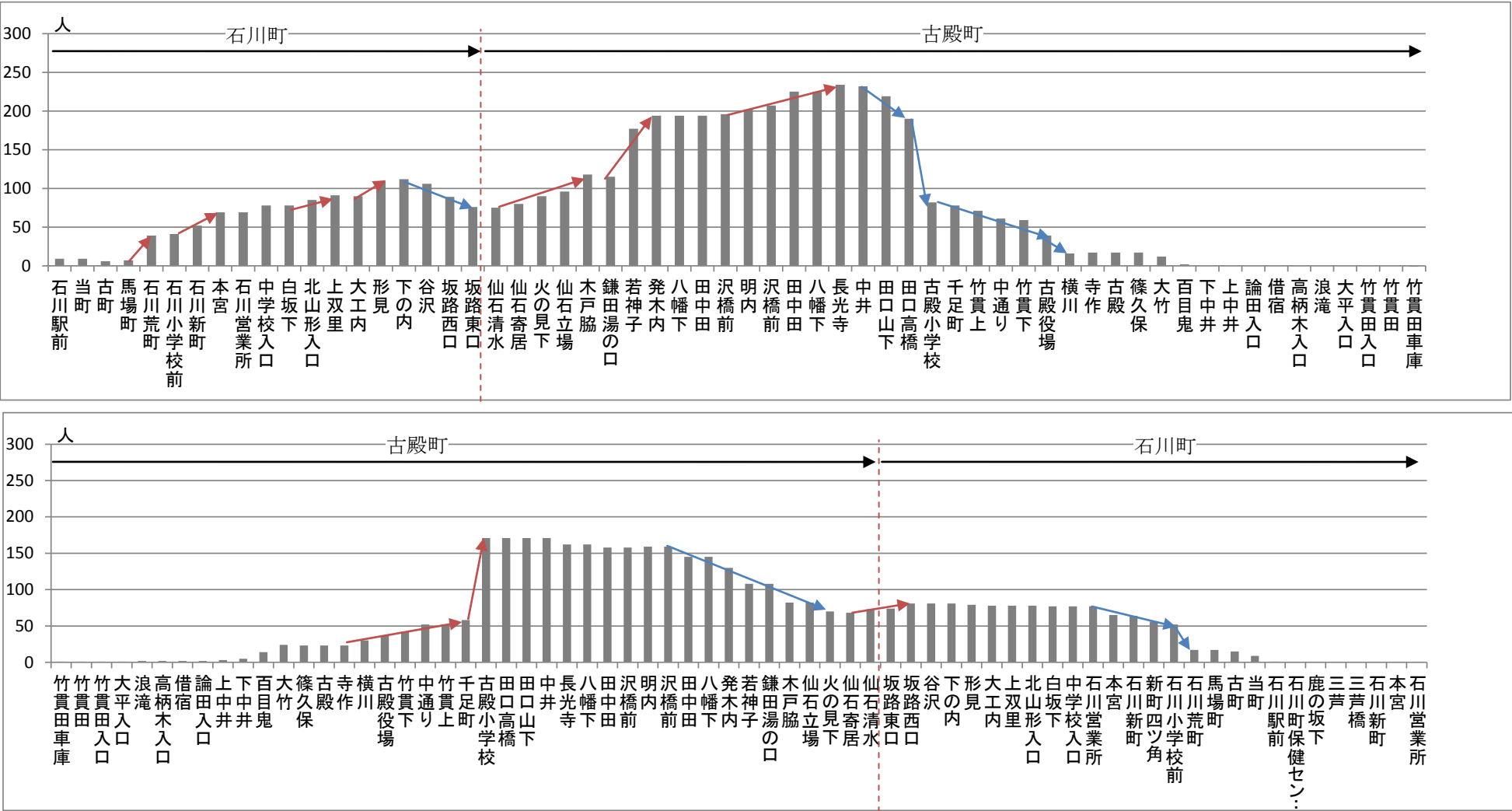


図 2-28 仁田線の乗降状況 (H24.11.1~7)

f) 竹貫田線

- ・古殿町行きは、石川荒町から本宮間、北山形入口から上双里、形見間で乗車し、谷沢から坂路東口間や古殿町内で降車している。
- ・石川町行きは、古殿町や仙石清水から坂路西口間で乗車し、本宮から石川荒町で降車している。



g) 宝木經由鮫川線

- ・ 鮫川村行きは、石川荒町から石川駅前間で乗車し、大室から塩の沢間で降車している。
- ・ 石川町行きは、塩の沢から南山形間で乗車し、立ヶ岡から石川小学校前間で降車している。

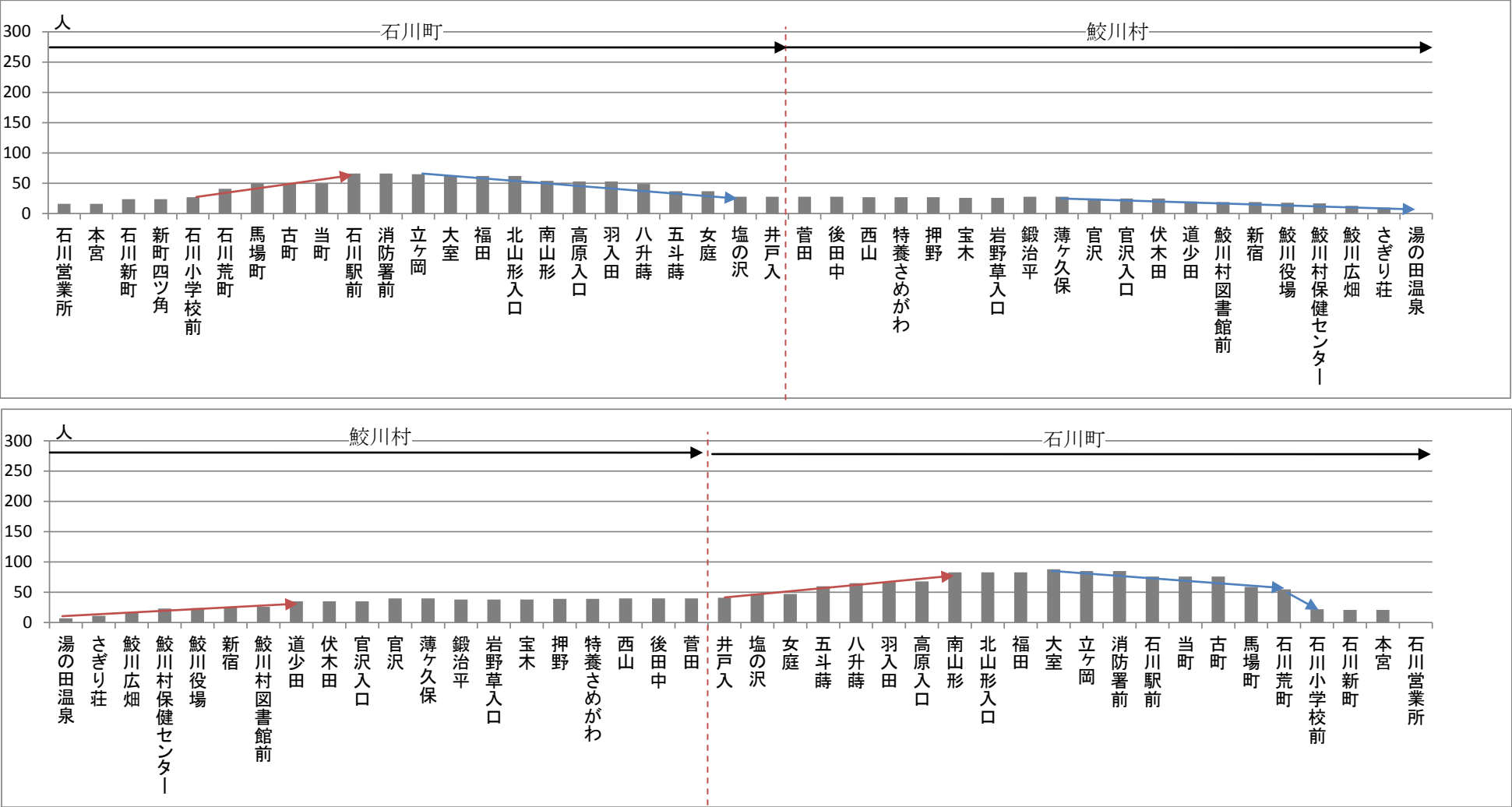


図 2-30 宝木經由鮫川線の乗降状況 (H24.11.1~7)

h) 小野・石川線

- ・石川町行きは、母畑ダムから石馬間で乗車し、天狗の入りから新町四ツ角間で降車している。
- ・小野町行きは、利用の大部分が平田町内、小野町内であるが、新町四ツ角から天狗の入り間で乗車し、下の湯から母畑ダム間で降車している。

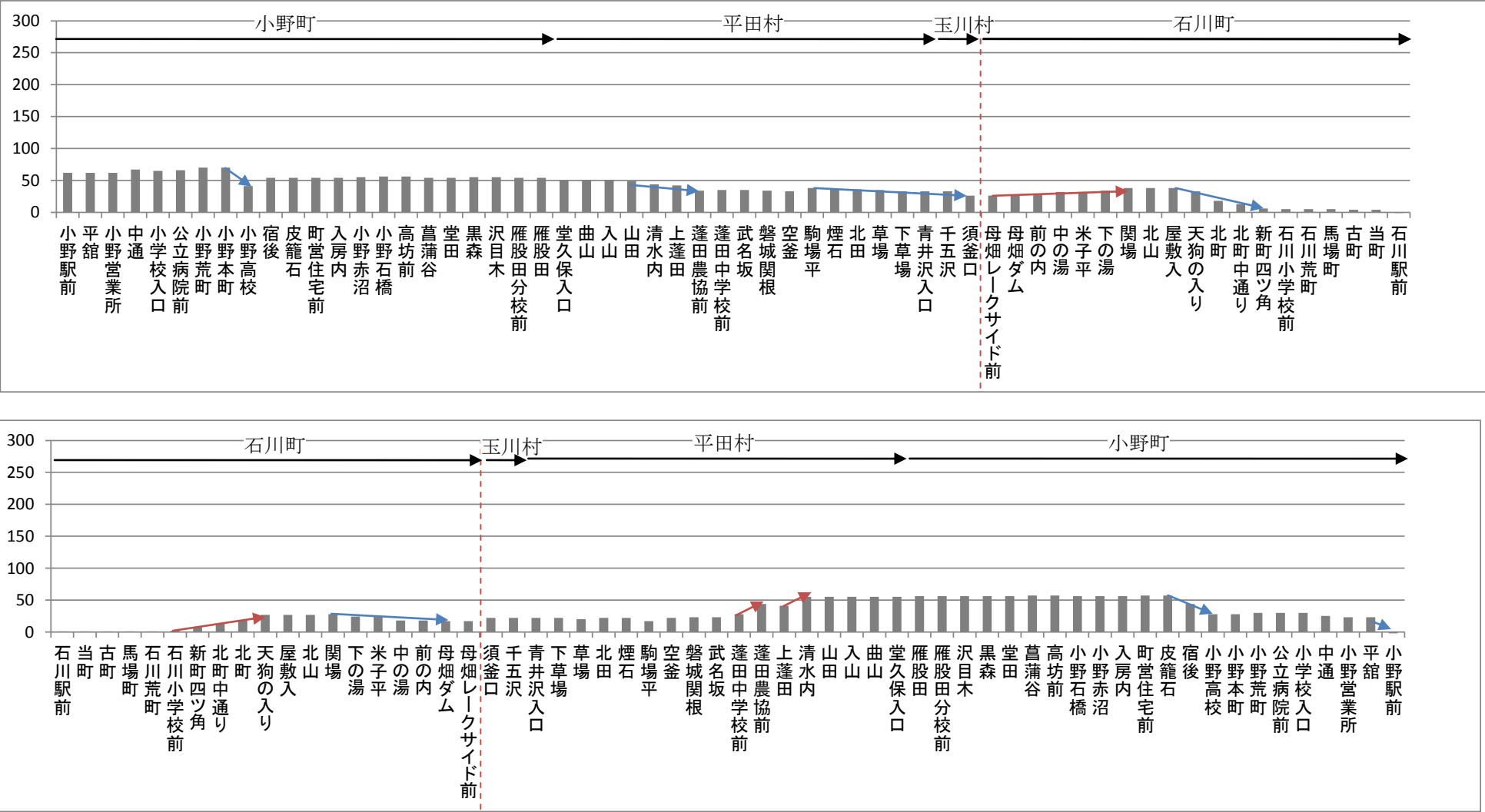


図 2-3 1 小野・石川線の乗降状況 (H24.11.1~7)

i) 名花線

- ・古殿町行きは、中学校入口で乗車し、高野から大塚間で降車している。
- ・石川町行きは、古殿町や泥の草入口から矢造間で乗車し、白坂下や石川新町から石川荒町間で降車している。

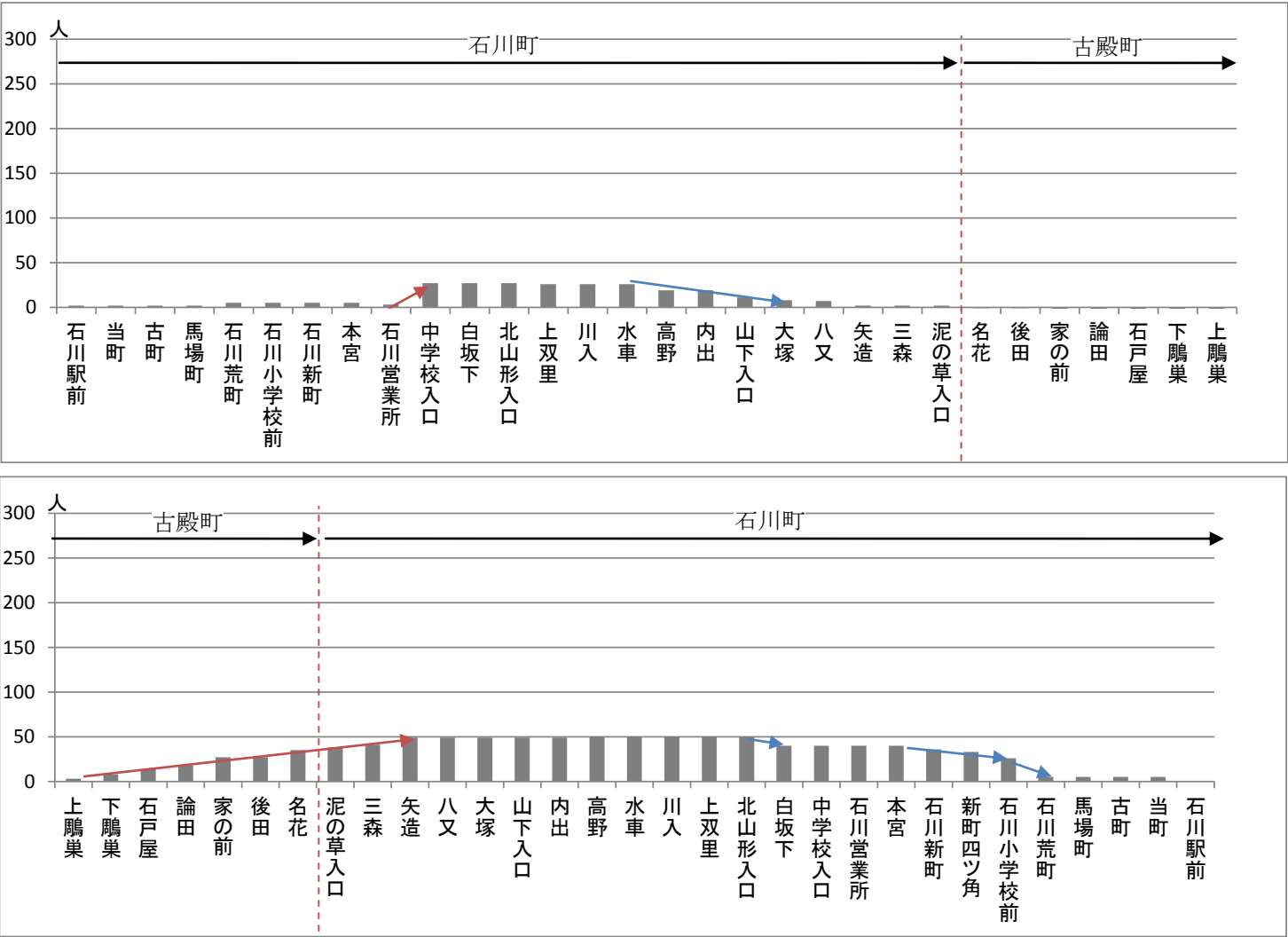


図 2-3 2 名花線の乗降状況 (H24.11.1~7)

j) 鳥内橋線

- ・鳥内橋行きは、石川新町で乗車し、桜ヶ岡から和久間で降車している。
- ・石川営業所行きは、和久から新屋敷間、梁瀬上から外楨間で乗車し、石川新町や石川営業所で降車している。

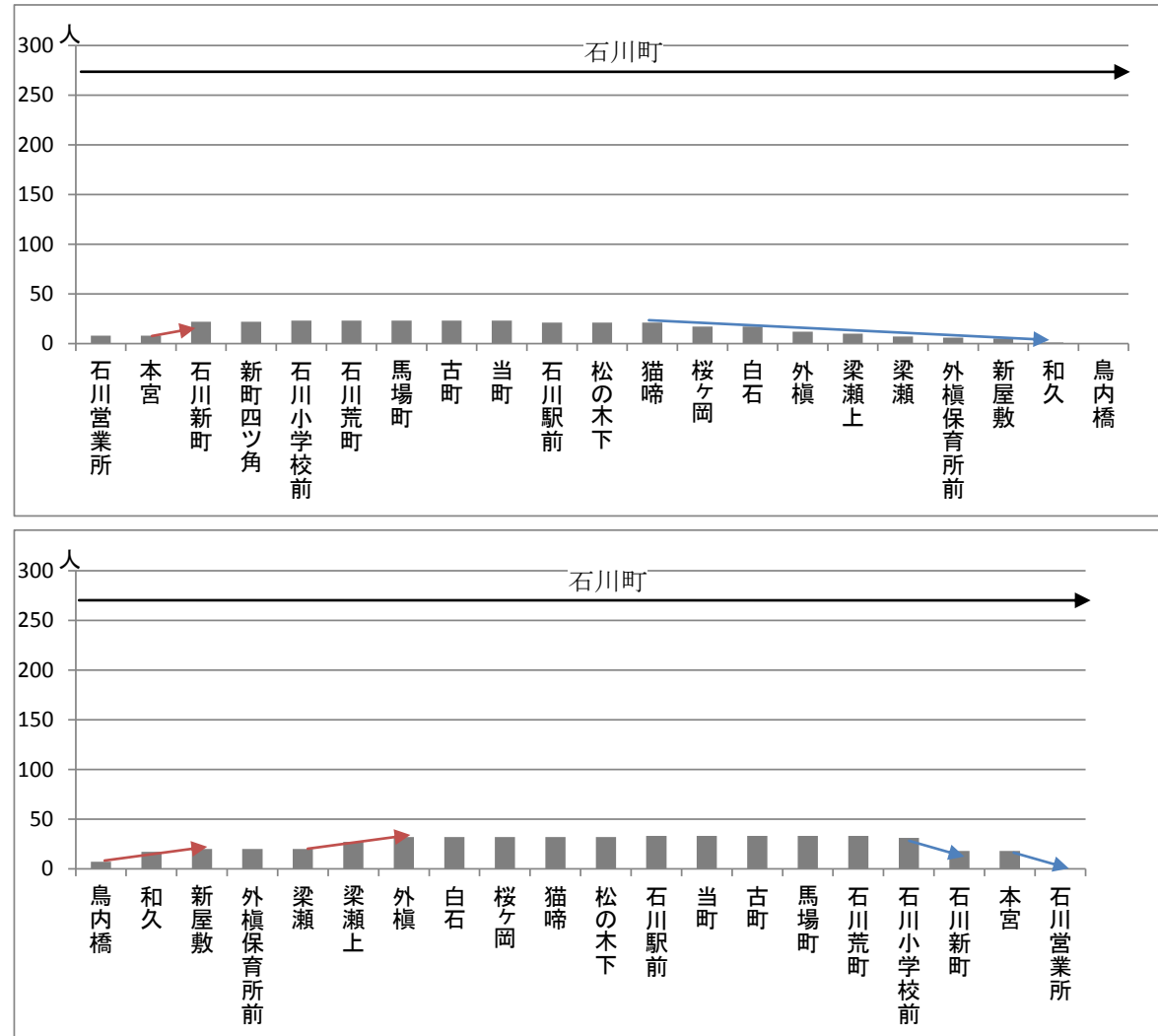


図 2-3-3 鳥内橋線の乗降状況 (H24.11.1~7)

k) 有実線

- ・古殿町行きは、石川荒町から中学校入口間で乗車し、谷沢から坂路西口間で降車している。
- ・石川町行きは大部分が古殿町内での利用であり、石川町内の利用は少ない。

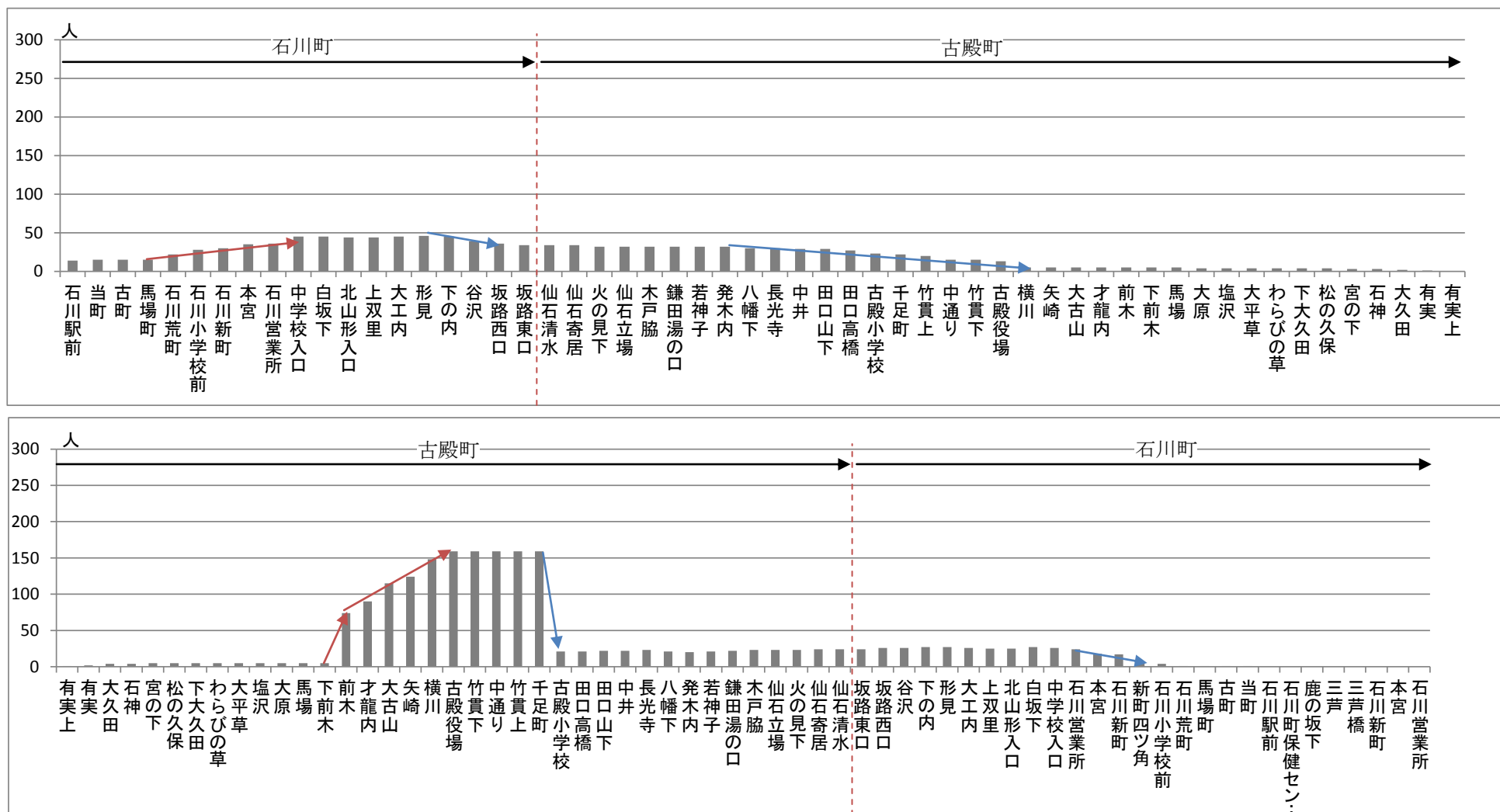


図 2-3 4 有実線の乗降状況 (H24.11.1~7)

1) 石川・浅川線

・浅川町行き、石川町行きともに、利用は少ない。

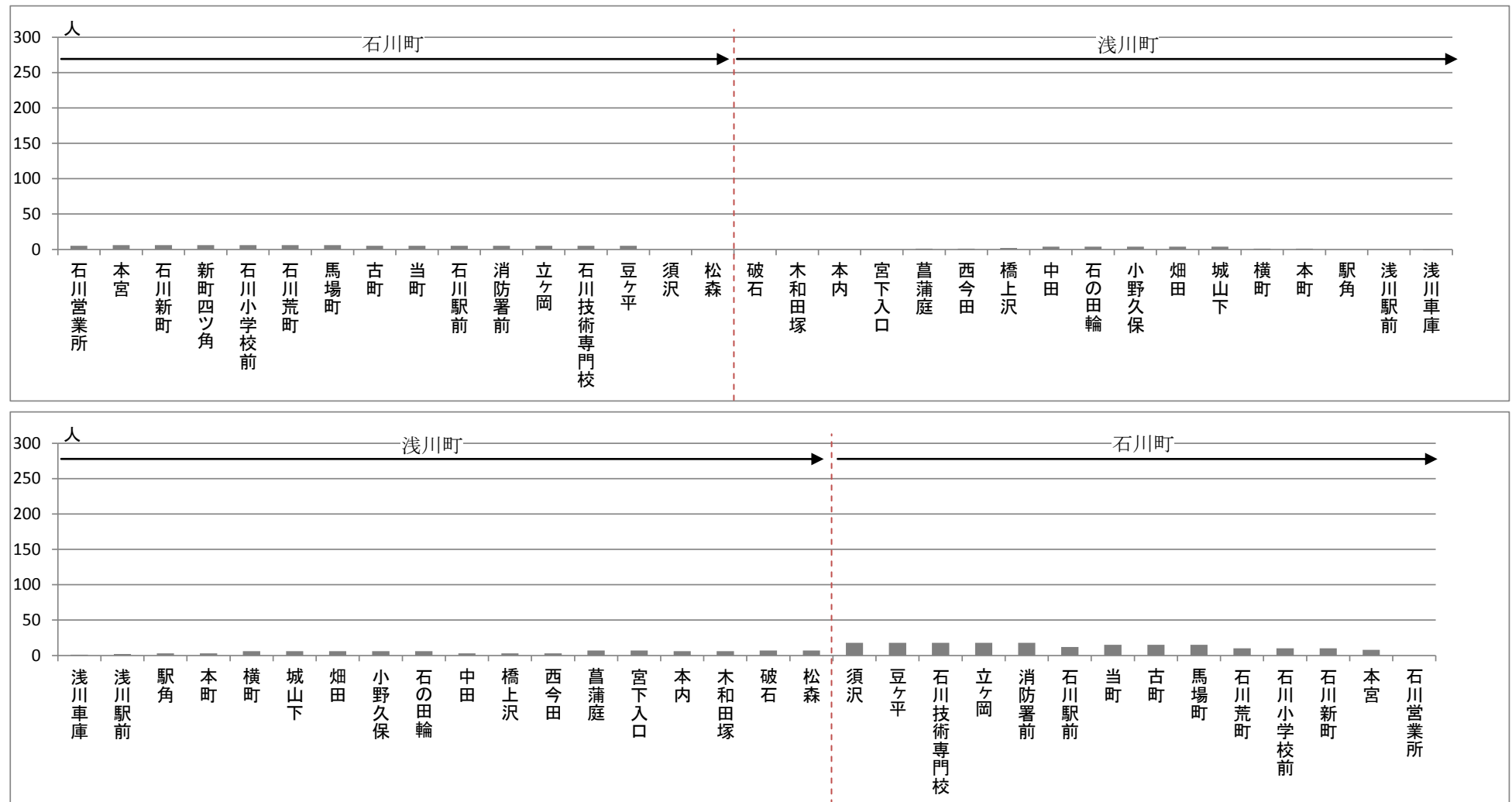


図 2-3 5 石川・浅川線の乗降状況 (H24.11.1~7)

③タクシーの利用状況

- ・タクシー利用は、通院、駅への送迎、介護施設への送迎利用が多いが、ここ5年で10~20%利用減少。
- ・これにより、保有する車両の台数も減少している。

タクシー事業者ヒアリング結果

1. 有限会社三光タクシーの利用状況

(1) 利用者数など

- ・平成24年の利用者数は38,227人で、ここ5年間は10~20%利用者が減少。
- ・利用者減少の理由は、人口減少にあると考えられる。
- ・一時期は10台保有していたが、削減した。(福島県内では、一時期3,000台あった車両が2,200台まで減少している。)

(2) 利用実態

- ・利用者は、60~70歳は町内から磐城石川駅までの利用が多く、70~80歳は町内移動が多い。
- ・町内の医療機関は、個々で送迎バスを運行しているが、それよりも早く病院に到着し順番をとりたい人がタクシーを利用している。
- ・通院の回数は月3~5回が多い。
- ・買い物の利用はほとんどない

2. マルイチ新石川タクシー有限会社の利用状況

(1) 利用者数など

- ・平成24年の利用者数は約55,000人で、ここ5年間は約20%利用者が減少。
- ・利用者の減少により運転者も減らさざるを得ない状況にある。
- ・利用者の半分は固定客。

(2) 利用実態

- ・日中の利用は少なく、待機時間が長い。
- ・利用は、6~10時頃は町内から磐城石川駅、8~10時頃は病院へ行く利用が多い。また、介護施設には8~16時に利用される。
- ・病院利用者は、復路は病院の送迎バスを利用することが多い。
- ・若者の利用も3割程度あり、多くが飲んだ後の利用である。

(3) 地域公共交通の取組と今後の展望

- JR水郡線は、利用促進に向けて官民協働で取り組みを始めたばかり。
- 路線バス事業者は、安全面を重視したサービス提供を心がけ、今後も行政補助が維持される限り、町内での運行を望んでいる。
- 路線バス事業者は、当面小・中学校及び高校の通学利用を主のターゲットと考えている。
- タクシー事業者は、今後も厳しい状況が継続することを懸念しており、乗合事業への参入を考えている事業者も存在。

①JR 水郡線の取組と今後の展望

- ・沿線市町村が「水郡線活性化対策協議会」を組織し、JR 水郡線の利用促進に取り組んでいる。
- ・現在は、ホームページでの沿線観光情報などの紹介や、車内に児童の絵画コンテスト入賞作を飾る「水郡線児童絵画展」の実施、車両のラッピングやイベントの実施を行っている。



図 2-36 ホームページでの沿線観光情報の紹介



写真 2-1 水郡線児童絵画展



写真 2-2 車両のラッピング



写真 2-3 イベントの実施

②路線バスの取組と今後の展望

- ・路線バス事業者は、安全面を重視している。
- ・路線バス事業者は、内部補助は行っておらず国・県・市町村からの補助で成り立っており、補助がある間は、事業を続けたいと考えている。
- ・当面は、通学利用を主の利用者と考えている。

福島交通株式会社石川営業所ヒアリング結果

1. 事業者の現状

(1) 利用状況

- ・利用者数は、ここ数年は横ばい状態である。
- ・バス専用の IC カード（NORUCA）の導入により、不正乗車が減少し特に都市部では運賃収入が向上した。

(2) サービスなど

- ・ダイヤは通学に合わせることに比重を置いている。
- ・運賃収入で賄えないものは、国・県・町からの補助で埋め合わせており、内部補助は行っていない。
- ・NORUCA で各種割引サービスを実施している。
（チャージ時に、通常 10%ポイント付加、学生は 20%付加、「1」のつく日は 40%付加）
- ・利用者の約 8 割が NORUCA を使用。
- ・優しく親切な対応を心がけている。
- ・安全・安心運行を特に重視しており、運転手の健康管理（SAS 検査、アルコールチェックなど）や教育に力を入れている。

2. 今後の石川町での路線バス運行について

- ・行政から補助をいただいている限りは、当面、路線バスを退出する意向はない。
- ・当面は通学利用を主眼に置いたサービス展開を考えている。
- ・通院、買い物利用への展開は現状では考えていない。
- ・特に、通院需要は、各医療機関が送迎バスを運行しているため、路線バス利用は少ないと感じる。
- ・町外への通院利用は若干存在する。特に、福島病院や須賀川病院、会田病院がある。
- ・小中学校の統廃合に向けて、石川小学校前にバスの転回場を建設予定であるが、安全で利便性の高い転回場所の整備などについて、いろいろと提案したい。
- ・小中学校の統廃合によるスクールバスの運行は筋が通っていないと感じる。旧小中学校には、すべて路線バスが通っているため、児童・生徒は旧小中学校まで来て路線バスに乗ればいいと思う。
- ・15 時台が高校生の下校に合っていないという認識があるため、今後改正を想定している。
- ・庁舎移転への対応は、竜崎線で十分と考えており、福島交通で新たに路線を運行することは考えていない。ただし、石川町がコミュニティバスを運営するなら、手伝ってもよい。

③タクシーの取組と今後の展望

- ・タクシー事業者 2 社のうち 1 社は乗合事業への参入意志がある。

タクシー事業者ヒアリング結果

1. 有限会社三光タクシーのこれまでの取組と今後の事業展開について

- ・利用促進のために、県内のタクシーは、ワンコイントクシー（小型タクシーの初乗り 500 円）や 10%割引を行っている。
- ・一般乗合事業には参加するつもりはない。
- ・最近、運転代行やマイカーが普及してきており、タクシー事業は今後も厳しくなることが予想される。

2. マルイチ新石川タクシー有限会社の今後の事業展開について

- ・一般乗合事業は参入したいと考えており、須賀川市ではグループ会社がデマンド運行の入札に参加している。
- ・一般乗合事業に参入するために、運行管理者を育てなければならない。
- ・迎車料金は、町内、古殿町、浅川町、玉川村は無料としているが、乗合をする場合、空車距離 10 kmで 1,500 円くらい欲しい。

(4) バスを利用しない理由

- 独居高齢者等の2人に1人は、買い物等に対応したダイヤとなっていないため、バスを利用していない。
- 独居高齢者等の3人に1人は、そもそもバスを意識していないため、バスを利用していない。
- 独居高齢者等の4人に1人は、買い物などで重い荷物を持つと不便なため、バスを利用していない。
- 独居高齢者等の4人に1人は、バス停に行くのが困難なため、バスを利用していない。

- ・独居高齢者や高齢夫婦世帯（以下、「独居高齢者等」という）がバスを利用しない理由は、「使いたい時間に走っていない」が最も多く46.7%、次いで、「バスを利用しようと思ったことがない」が32.4%、「重い荷物を持つと不便」が27.5%、「バス停に行くのが困難」が23.8%と多い。

表 2-17 独居高齢者等がバスを利用しない理由

	回答数	割合
バス停に行くのが困難	58	23.8%
利用方法、時刻、行き先がわからない	8	3.3%
時間がかかりすぎる	24	9.8%
使いたい時間に走っていない	114	46.7%
運賃が高すぎる	12	4.9%
車内に段差があり乗り降りしづらい	34	13.9%
重い荷物を持つと不便	67	27.5%
バスを利用しようと思ったことがない	79	32.4%
その他	44	18.0%
無回答	23	9.4%
回答者数	244	

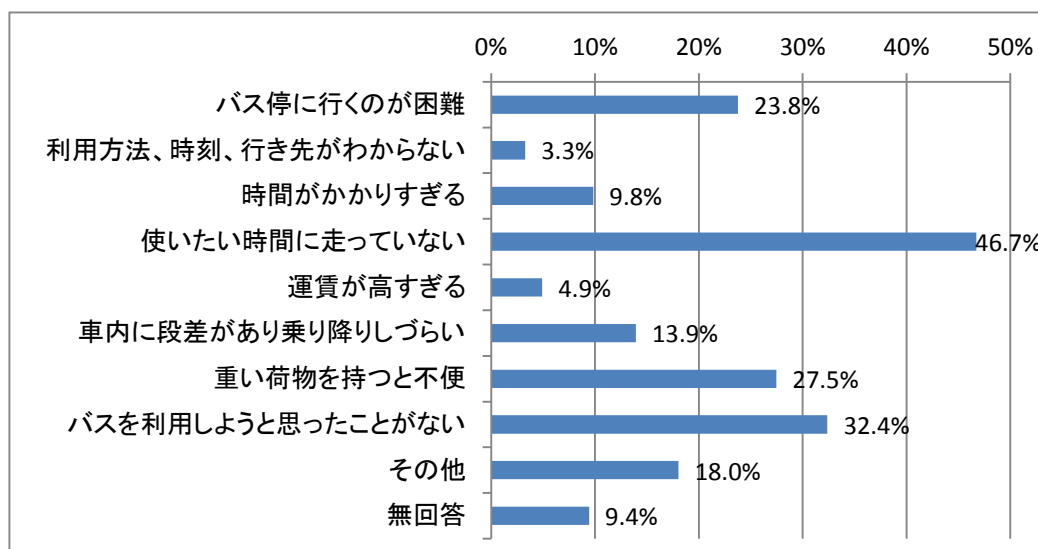


図 2-37 独居高齢者等がバスを利用しない理由

- ・路線バスの運行は、午前中は通学時間に特化しており、町内のスーパーでの買い物に良い時間がない。

表 2-18 主な食品スーパー最寄りバス停の時刻表

中学校入口 最寄:リオンドール石川店(9:00開店)					
	仁田、竹貫田、有実			石川・蓬田、名花	
	石川駅行	石川営業所行	古殿行	石川営業所行	平田行、名花行
6					
7	38	53	10	44、46	20
8	01	0			
9		23		24	
10					
11					
12			0		
13	帰りの便がない	50	25		20、40
14				31	
15			20、30		10
16		08	40	14	40
17	08	28	00、55		05
18			50		
19					

学休日運行

北山形入口 最寄:ライフポートわしお石川店(9:00開店)					
	仁田、竹貫田、有実			石川・蓬田、名花	
	石川駅行	石川営業所行	古殿行	石川営業所行	平田行、名花行
6					
7	37	52、59	11	43、45	21
8	0				
9		22		23	
10					
11					
12			01		
13		49	26		21、41
14				30	
15			21、31		11
16		07	41	13	41
17	07	27	01、56		06
18			51		
19					

学休日運行

石川警察署前 最寄:ヨークベニマルメガステージ店(9:30開店)		
	竜崎経由石川	
	石川駅前行	須賀川駅行
6		
7	36	15
8		20
9		
10		
11	56	
12		0
13		
14	56	
15		
16		
17	06	15
18	56	15
19		

午前中に買い物できない

- ・高校の通学での路線バス利用は、特に下校時の 15 時台のバスがないとの意見が出ており、路線バス事業者も認識している。

表 2-19 高校生の通学に対する路線バスのダイヤについて

ヒアリング対象	路線バス利用について
県立石川高校	・クラブのない生徒の下校時間は 15:35 であるが、白河方面の下校時のバスの時間が合わない。生徒は 17 時台のバスを待っている。
学法石川高校	・クラブのない生徒の下校時間は 15:10 であるが、下校時のバスの時間が合わない。
県立石川養護学校	・白河方面の利用者は早朝の便を利用しており、少し遅い便があると良い。 ・白河市（蕪内）の生徒は、バスがないため、クラブ活動に参加できない状況となっている。（終業時間は 15:10、クラブの終了時間は 16:00）
福島交通株式会社	・15 時台が高校生の下校に合っていないという認識があるため、今後改正を想定している。

高校ヒアリング結果、交通事業者ヒアリング結果より

表 2-20 高校の最寄りバス停の時刻表

桜ヶ岡 最寄: 県立養護学校(16:00クラブ終了)				
	新白河・石川		鳥内橋	
	石川営業所行	新白河駅行	石川営業所行	鳥内橋行
6				58
7	40	12	19	
8		57		
9				
10	30			
11		12		
12				
13	25			
14		42	49	27
15	10	42		
16	40	22		42
17			04	
18	10			
19	30	02		

16:00 にクラブ終了後、バスがない。

新町四ツ角 最寄: 県立石川高校(15:35終業)	
	新白河・石川
	新白河駅行
6	
7	03
8	48
9	
10	
11	03
12	
13	
14	33
15	33
16	
17	13
18	53
19	

15:35 に終業後、バスがない。

2-3-3. その他移送サービス

- 医療施設の送迎バスが運行。
- 現在、学法石川高校がスクールバスを運行。平成 27 年度以降は、石川小や石川中に統合される学区のうち、路線バスが運行していない地区でスクールバスが運行される予定。
- 県立石川高校では、入学時に通学方法がわからない生徒も存在。

(1) 医療施設送迎バス

- ・町内で開院する医療施設のうち、5 つの医療施設で患者の送迎サービスを実施。

表 2-2 1 町内で送迎を行っている医療施設

医療施設名	使用車両	定員	台数	サービス範囲	本数	運行方式	H24利用者数
大野診療所							
大野北町診療所	マイクロバス	26人乗	1				
	ワゴン	10人乗	1				
		8人乗	1				
中島医院	マイクロバス	29人乗	1				
	ワゴン	医療施設ヒアリングで調査予定					
	軽ワゴン	4人乗	3				
田中内科医院	ワゴン	13人乗	1				
		10人乗	1				
とりごえ整形外科クリニック	マイクロバス	28人乗	1				
	ワゴン	15人乗	1				

(2) スクールバス

①学法石川高校

- ・学法石川高校では、生徒集めの一環としてスクールバスを運行。
- ・白河方面、小野・平田方面、郡山・須賀川・鏡石・矢吹方面の3方向に運行。
- ・教師は全員がクルマ通勤であり、地域公共交通利用は現状では見込めない。

表 2-22 学法石川高校のスクールバス概要など

項目	概要
運行本数	朝1便、夕2便
運行方法	有限会社野本観光バスに委託し運行
運行地域 (主な乗降場所)	・白河方面(みさか小学校付近、新白河駅、白河駅、関根医院前、総合運動公園、市営団地、田野郵便局、白河実業高校、泉崎ファミリーマート、表郷地区、中島セブンイレブン、滑津小前、JA沢田) ・小野・平田方面(小野駅前、消防署前、永田郵便局、千五沢バス停、山小屋入り口) ・郡山・須賀川・鏡石・矢吹方面(郡山、須賀川アリーナ、大町、鏡石駅前、矢吹駅前、いやさかセブンイレブン前)
系統数	・新白河行き：2系統 ・須賀川行き：1系統 ・蓬田行き：1系統
その他意見	・スクールバスがあることをウリに生徒集めをしている手前、積極的に路線バス通学を推奨できない。 ・教師は全員がクルマ通勤。 ・仕事終わりは18:00～19:00頃が多いが、バスは本数が少ないためバス通勤をしようとする人はいないと思う。

学法石川高校ヒアリング結果より

②県立石川高校

- ・県立石川高校では、以前、泉崎町や矢吹町方面にスクールバスを運行していたが、当該方面の生徒が減少したため、運行を取りやめた。
- ・入学時に通学方法がわからない生徒もいる。
- ・教師は全員がクルマ通勤であり、地域公共交通利用は現状では見込めない。

県立石川高校ヒアリング結果

1. 生徒の通学実態

- ・中島村からの生徒約30人は村営バスを運営しており、29人乗りのマイクロバスで通学。
- ・石川町や古殿町の生徒は、送迎、徒歩のほか、気候がいい時は自転車で通学。
- ・自転車による事故は年に1回あるかどうか。
- ・スクールバスは、泉崎町、矢吹町の生徒が多かったときは、学校が野本観光に委託して運行していたが、本年度は当該方面の人数が減ったため、採算が合わなくなり廃止した。

2. その他

- ・入学時に、通学方法がわからない生徒もいるため、合格通知配布時にバスマップなどを渡すことも重要と考える。
- ・教師は全員が車通勤。
- ・教師の居住地は、白河市や郡山市、塙町が多いが、路線バス通勤は運賃が高いことや時間がかかりすぎることから、あまり協力してもらえないと思う。

③小中学校統廃合後のスクールバス

- ・石川町では、平成 27 年度の小中学校統廃合に合わせ、スクールバスを運行する予定であり、現在検討中。
- ・「路線バスの利便性が確保できる地域及び市街地は路線バスを利用」としているが、路線バスで対応する地域は、中谷一小（登下校）と塩沢東口（登校のみ）にとどまる。

表 2-23 小中学校統廃合後のスクールバスの概要（案）

項目	概要
運行の考え方	・概ね旧小学校学区を基準に専用バスを運行 ・ただし、路線バスの利便性が確保できる地域及び市街地は路線バスを利用 ・専用バスは国道、県道を中心に運行し、一定の集落ごとに乗降箇所を設定
運行本数	登校：1回 下校：【小学生】2回、【中学生】1回
運行日	授業実施日
通学援助対象の基準	【小学生】 石川小まで 3 km以上通学距離がある児童 【中学生】 石川中まで 4 km以上 " 生徒
通学援助方法	・専用バスの無料運行 ・路線バスの定期券無償交付 ・ヘルメットの無償支給（3.5 km以上）
スクールバス対応地域	（登下校） 母畑小、中谷二小、南山形小、山形小、沢田、野木沢小 （下校のみ） 塩沢東口
路線バス対応地域	（登下校） 中谷一小 （登校のみ） 塩沢東口

石川町資料（H25.5.28 時点）

2-3-4. 人の動き

- 町内の約半数は、郡山市や須賀川市、白河市などに通勤、通学。
- 通勤、通学は、5人に1人が自動車を利用。
- 独居高齢者等は、買い物は市内のスーパーが多く、自動車（送迎、自分で運転）が多い。10人に1人はタクシーやバスも利用。
- 独居校正者などは、多くが町内の医療施設に通院。自動車（送迎、自分で運転）や医療施設の送迎バスが多い。7~8人に1人はタクシーやバスを利用。

(1) 通勤・通学

- ・石川町民のうち、61.8%は町内で就業しており、この割合は、類似の他町村と同程度。
- ・石川町民のうち、50.3%は町内に通学しており、この割合は、類似の多町村よりやや高い。

表 2-24 通勤・通学場所

	人数						割合			
	通勤			通学			通勤		通学	
	従業者数	自市町内	自市町外	通学者数	自市町内	自市町外	自市町内	自市町外	自市町内	自市町外
石川町	8,444	5,219	3,225	1,033	520	513	61.8%	38.2%	50.3%	49.7%
川俣町	7,238	4,540	2,698	597	273	324	62.7%	37.3%	45.7%	54.3%
南会津町	8,666	7,762	904	659	485	174	89.6%	10.4%	73.6%	26.4%
会津坂下町	8,618	5,431	3,187	750	285	465	63.0%	37.0%	38.0%	62.0%
西郷村	9,623	5,337	4,286	885	174	711	55.5%	44.5%	19.7%	80.3%
矢吹町	8,888	4,943	3,945	841	325	516	55.6%	44.4%	38.6%	61.4%
棚倉町	7,432	4,622	2,810	680	312	368	62.2%	37.8%	45.9%	54.1%

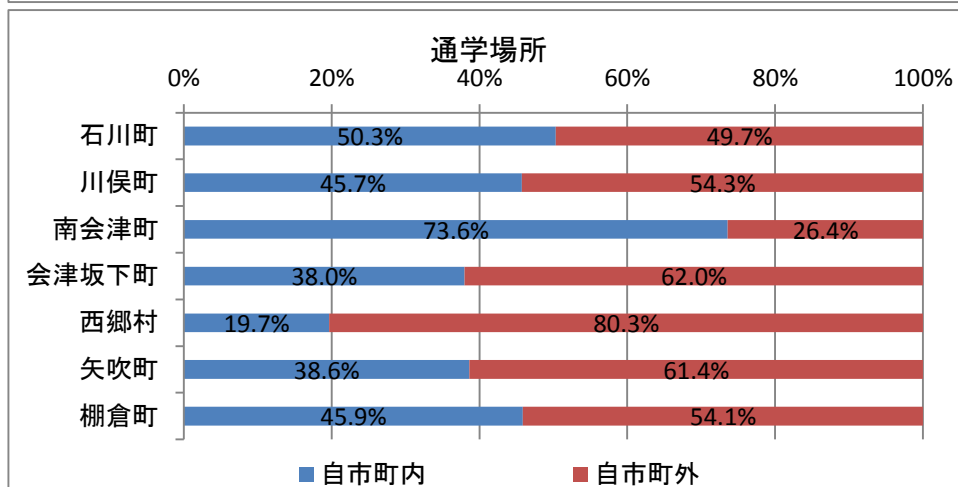
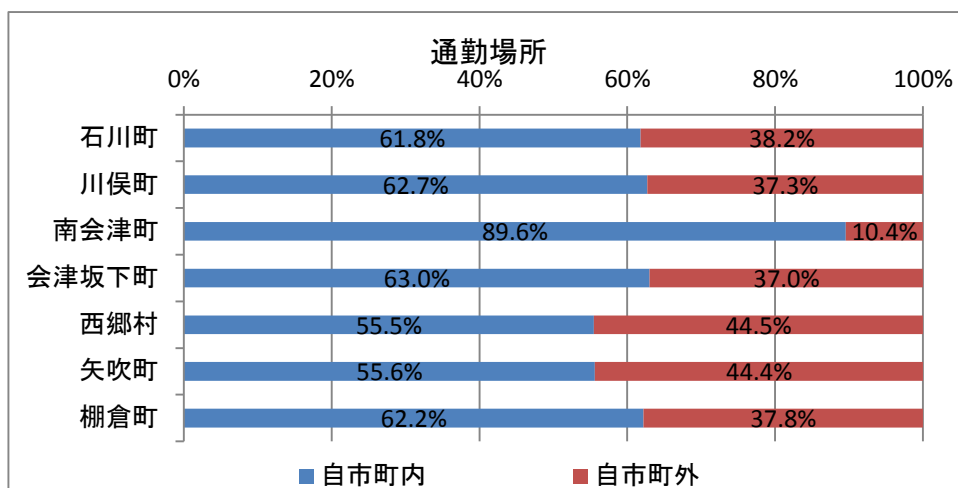


図 2-38 通勤・通学場所

資料：H22 国勢調査

- ・須賀川市、白河市、郡山市など北部や西部の市町村に通勤している町民が多い。
- ・石川町には、須賀川市や古殿町、浅川町、玉川村、平田村から通勤してきている。

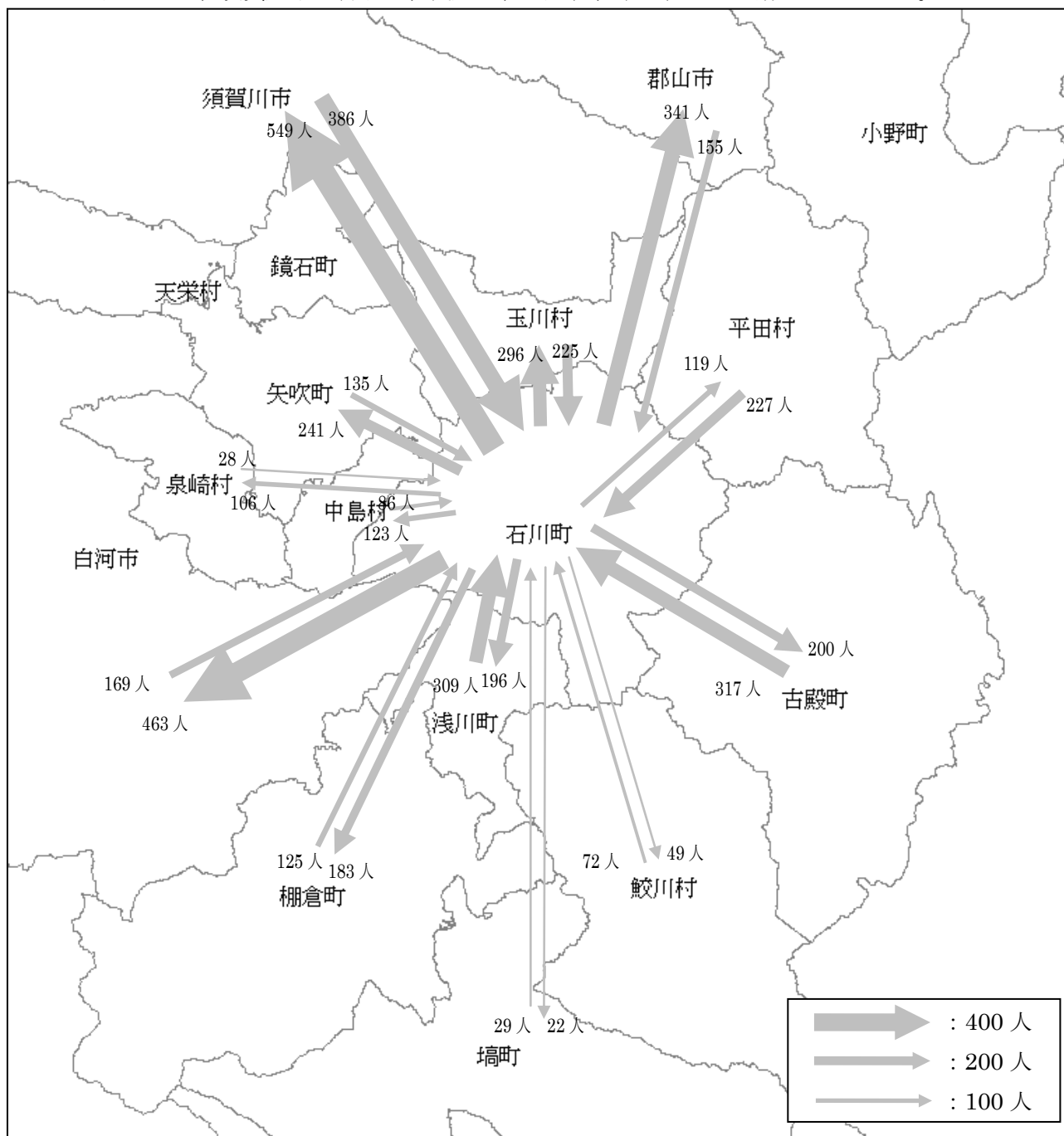


図 2-3 9 他市町村との通勤流動状況

資料：H22 国勢調査

- ・石川町からは、郡山市に多く通学している。
- ・石川町には、古殿町から多く通学してきている。

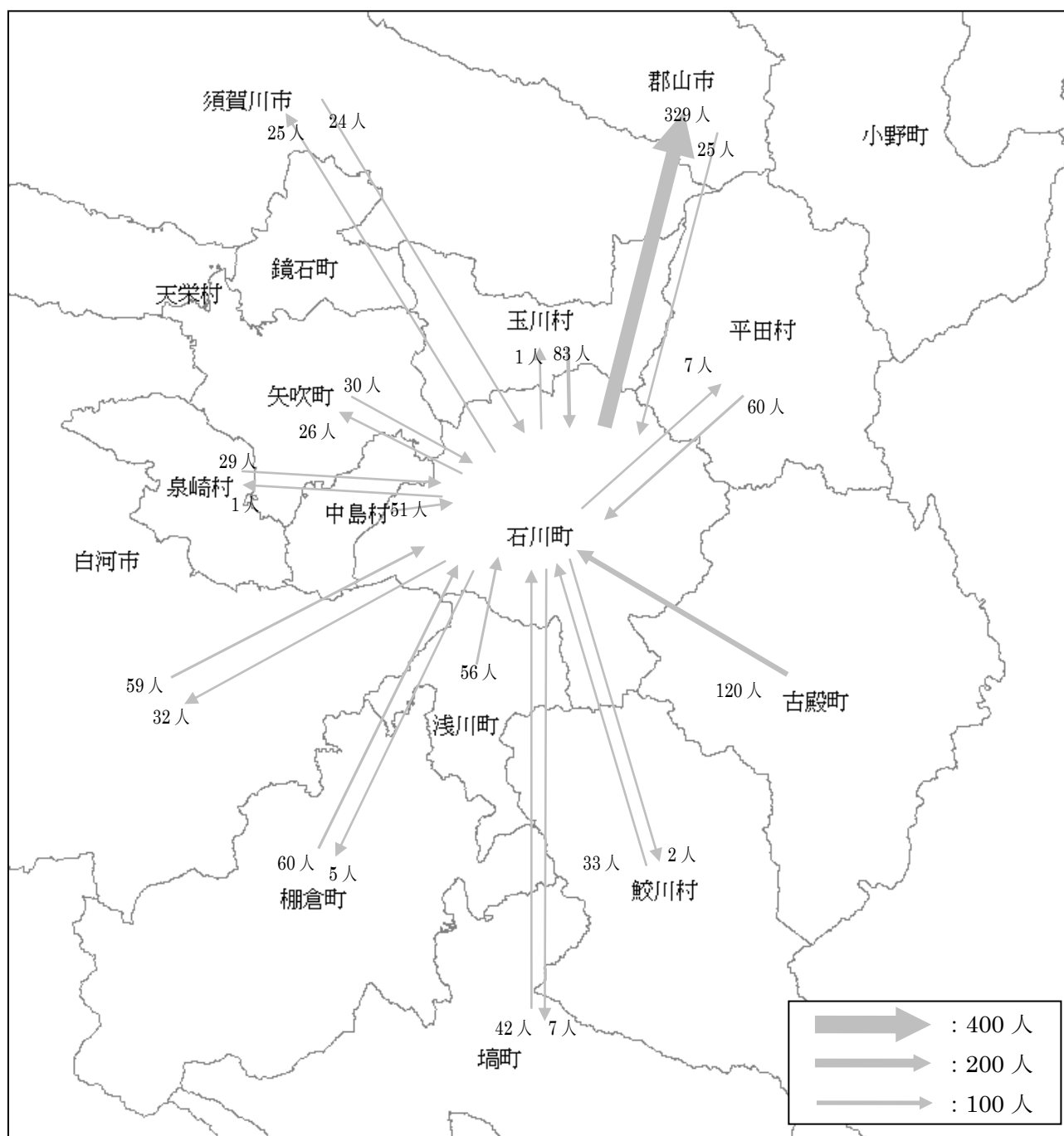


図 2-40 他市町村との通学流動状況

資料：H22 国勢調査

- ・町内居住の従業者・通学者の82%、町内で従業・就学する者の78%が自家用車で通勤・通学している。
- ・鉄道・電車利用はそれぞれ6%と5%、乗合バスは2%と3%である。

表 2-25 従業者、通学者の利用交通手段

	人数(人)		割合	
	町内居住の 従業者・通学者	町内で従業、就学	町内居住の 従業者・通学者	町内で従業、就学
徒歩だけ	487	487	6%	7%
鉄道・電車	451	335	6%	5%
乗合バス	128	215	2%	3%
勤め先・学校のバス	60	168	1%	2%
自家用車	6,199	5,517	82%	78%
ハイヤー・タクシー	4	5	0%	0%
オートバイ	35	36	0%	1%
自転車	346	376	5%	5%
その他	79	105	1%	1%
不詳	91	84	1%	1%
従業者・通学者総数	7,597	7,111		

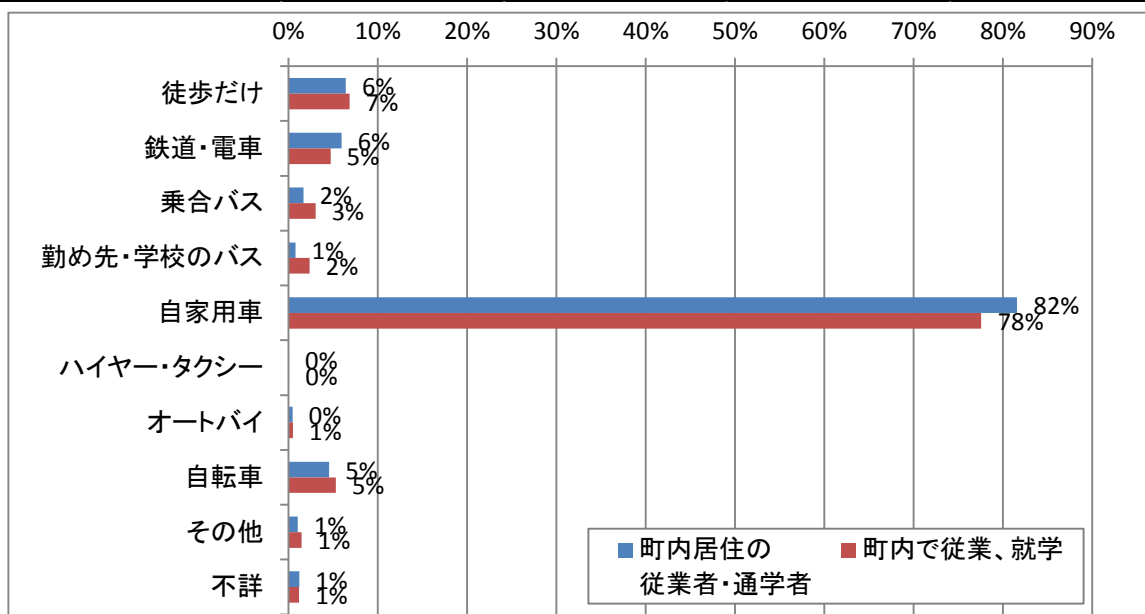


図 2-41 従業者、通学者の利用交通手段

資料：H22 国勢調査

(2) 買い物

- ・独居高齢者等の日常の買い物先は、メガステージ石川が 44.3%、リオンドール石川店が 32.4、ライフポートわしお石川店が 22.1%である。
- ・買い物手段は、「自動車（送迎）」が最も多く 26.2%、次いで、「自動車（自分で運転）」が 24.6%、「徒歩」が 23.8%である。
- ・買い物にタクシーを利用している独居高齢者等は 12.3%、バスは 9.4%である。

表 2-26 独居高齢者等の買い物箇所

	回答数	割合
メガステージ石川	108	44.3%
リオンドール石川店	79	32.4%
ライフポートわしお石川店	54	22.1%
あぶくま安心館	19	7.8%
あめだや	13	5.3%
ライフポートわしお東店	8	3.3%
酒井分店	7	2.9%
石井屋商店	6	2.5%
移動販売	6	2.5%
セブンイレブン	5	2.0%
かどや	4	1.6%
セブンイレブン石川王子平店	4	1.6%
セブンイレブン本宮店	3	1.2%
高原酒店	3	1.2%
メガステージ矢吹	3	1.2%
リオンドール玉川店	3	1.2%

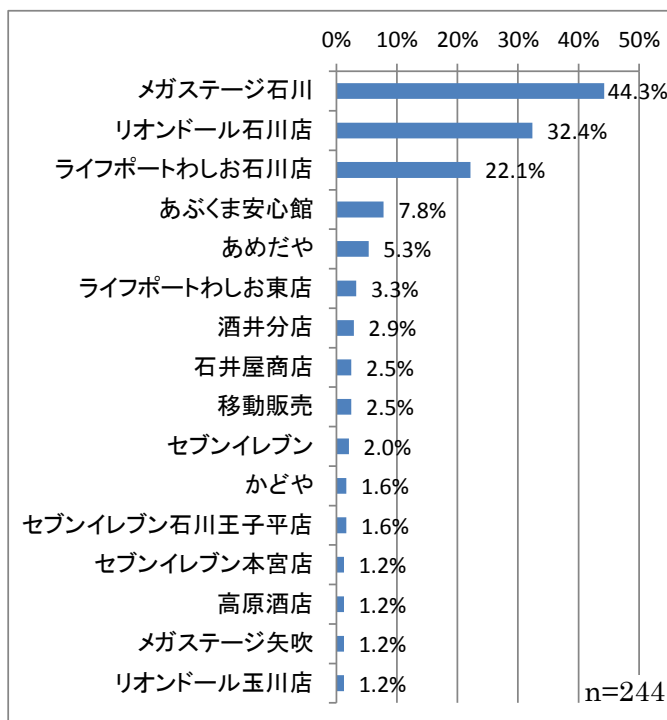


図 2-42 独居高齢者等の買い物箇所

表 2-27 独居高齢者等の買い物手段

	回答数	割合
鉄道	0	0.0%
バス	23	9.4%
タクシー	30	12.3%
自動車（自分で運転）	60	24.6%
自動車（送迎）	64	26.2%
原付、バイク	12	4.9%
自転車	25	10.2%
徒歩	58	23.8%
その他	24	9.8%
無回答	5	2.0%
回答者数	244	

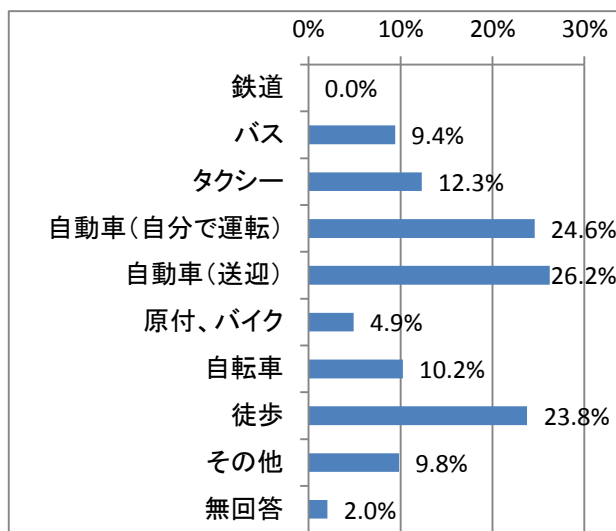


図 2-43 独居高齢者等の買い物手段

高齢者の外出に関するアンケート結果より

(3) 通院

- ・ 独居高齢者等の通院先は、「中島医院」が 23.4%で最も多く、次いで、「大野診療所」が 19.3%、「田中内科医院」が 16.0%と多く、いずれも、送迎バスを運行している医療施設である。
- ・ 味原医院（玉川村）、須賀川病院（須賀川市）、太田西ノ内病院（郡山市）、星総合病院（郡山市）など、町外の施設に通院する独居高齢者等も存在する。
- ・ 通院手段は、「自動車（送迎）」が最も多く 25.8%、次いで、「病院の送迎」が 22.1%、「自動車（自分で運転）」が 21.7%である。
- ・ 通院にタクシーを利用している独居高齢者等は 15.2%、バスは 11.1%である。

表 2-28 独居高齢者等の通院先

	市町村名	回答数	割合
中島医院	石川町	57	23.4%
大野診療所	石川町	47	19.3%
田中内科医院	石川町	39	16.0%
とりごえ整形外科クリニック	石川町	17	7.0%
味原医院	玉川村	16	6.6%
石川中央医院	石川町	16	6.6%
山本内科クリニック	石川町	14	5.7%
大竹眼科医院	石川町	12	4.9%
須賀川病院	須賀川市	11	4.5%
太田西ノ内病院	郡山市	9	3.7%
星総合病院	郡山市	8	3.3%
公立岩瀬病院	須賀川市	7	2.9%
総合南東北病院	郡山市	6	2.5%
添田医院	石川町	6	2.5%
あつうみ内科医院	玉川村	5	2.0%
桑野協立病院	郡山市	4	1.6%
近藤眼科	白河市	4	1.6%
白河厚生総合病院	白河市	4	1.6%
今泉眼科病院	郡山市	3	1.2%
寿泉堂総合病院	郡山市	3	1.2%
南東北春日リハビリテーション病院	須賀川市	3	1.2%

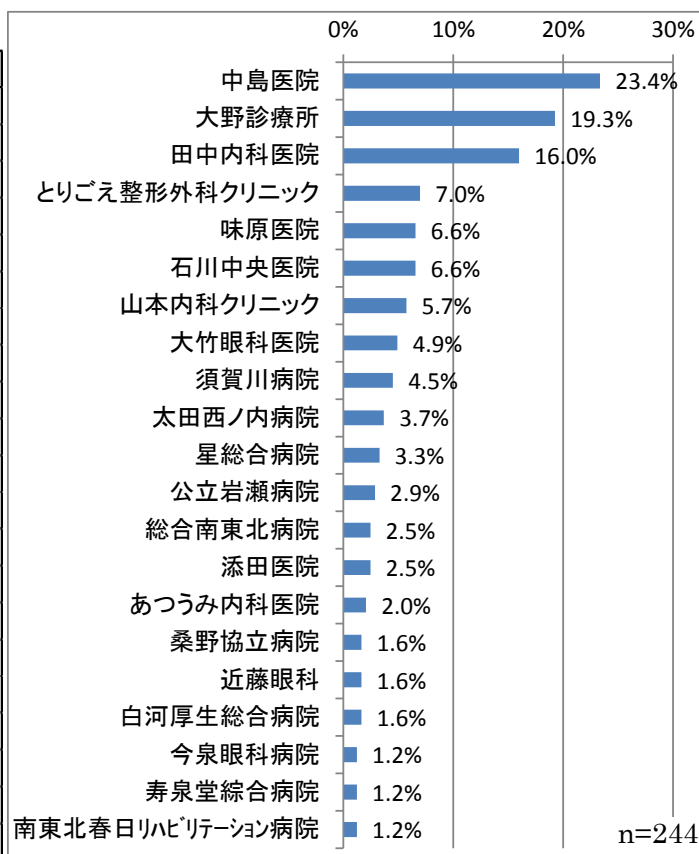


図 2-44 独居高齢者等の通院場所

表 2-29 独居高齢者等の通院手段

	回答数	割合
鉄道	15	6.1%
バス	27	11.1%
タクシー	37	15.2%
自動車（自分で運転）	53	21.7%
自動車（送迎）	63	25.8%
原付、バイク	8	3.3%
自転車	11	4.5%
徒歩	34	13.9%
病院の送迎	54	22.1%
その他	4	1.6%
無回答	10	4.1%
回答者数	244	

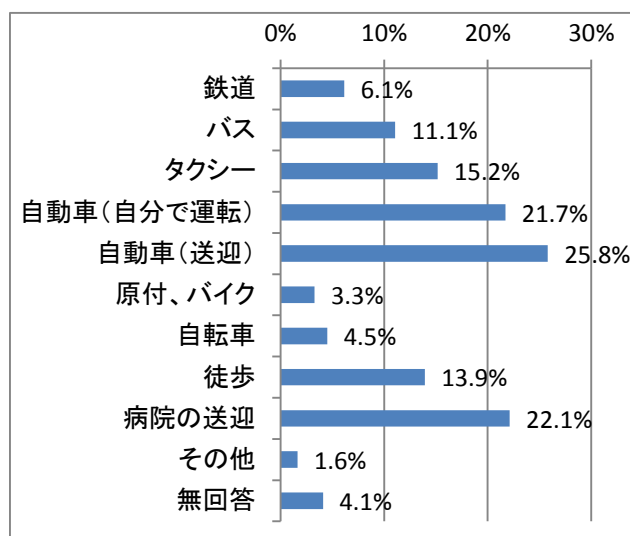


図 2-45 独居高齢者等の通院手段

高齢者の外出に関するアンケート結果より

2-3-5. 外出における困りごと

- 独居高齢者等の3人に1人は、毎回送迎をお願いするのは気が引けると感じている。
- 独居高齢者等の4人に1人は、重い荷物を持つと不便であるなどの理由で、買い物の回数を月に約2回程度制限。
- 独居高齢者等の4人に1人は、タクシーを利用しているが、運賃が家計に負担となっている。
- 独居高齢者等の4人に1人は、自動車やバスを利用できず自由に移動できていない。
- 独居高齢者等の8人に1人は、自動車をやめたいが他の移動手段がないためやめられない。

- ・独居高齢者等は、「送迎をお願いするのは気が引ける」が34.4%、「もう少しこまめに買い物に行きたいが、買い物の回数を制限している」が25.8%、「タクシーを利用しているが、運賃が家計に負担」が25.0%など、さまざまな困りごとを抱えている。

表 2-30 独居高齢者等の外出における困りごと

	回答数	割合
他の移動手段がないため自動車をやめられない	30	12.3%
自動車やバスを利用できず自由に移動できない	59	24.2%
送迎をお願いするのは気が引ける	84	34.4%
バスを利用しているが、運賃が家計に負担	19	7.8%
タクシーを利用しているが、運賃が家計に負担	61	25.0%
自由に移動できず外出の誘いを断らざるを得ない	51	20.9%
買い物の回数を制限している	63	25.8%
通院の回数を制限している	17	7.0%
地域の行事に参加したいが参加できない	45	18.4%
その他	33	13.5%
無回答	31	12.7%
回答者数	244	

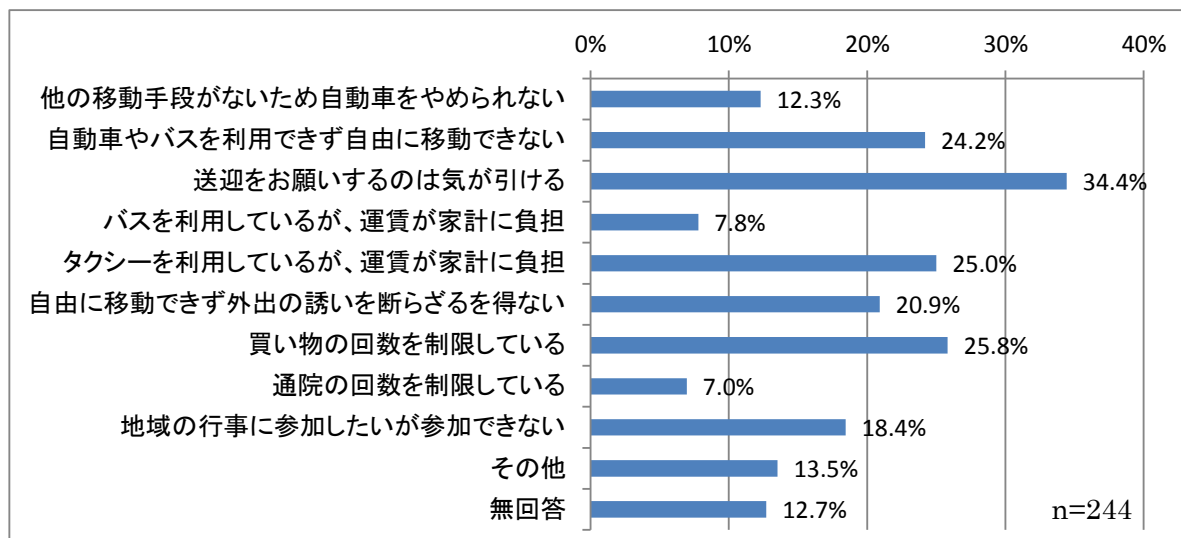


図 2-46 独居高齢者等の外出における困りごと

高齢者の外出に関するアンケート結果より

- ・「もう少しこまめに買い物に行きたいが、回数を制限している」と回答した独居高齢者等は、月5.1回買い物をしており、「回数を制限していない」独居高齢者等よりも月2回程度頻度が少ない。
- ・「もう少しこまめに買い物に行きたいが、回数を制限している」と回答した独居高齢者等のうち58.7%は、「重い荷物を持っている際に不便なため」バスを利用しないと回答している。

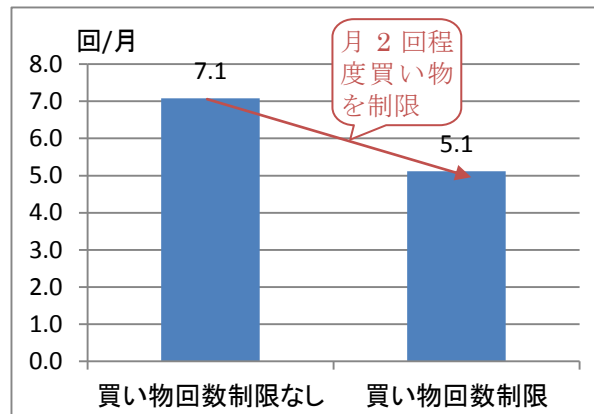


図 2-47 買い物制限の有無による買い物頻度の差（独居高齢者等）

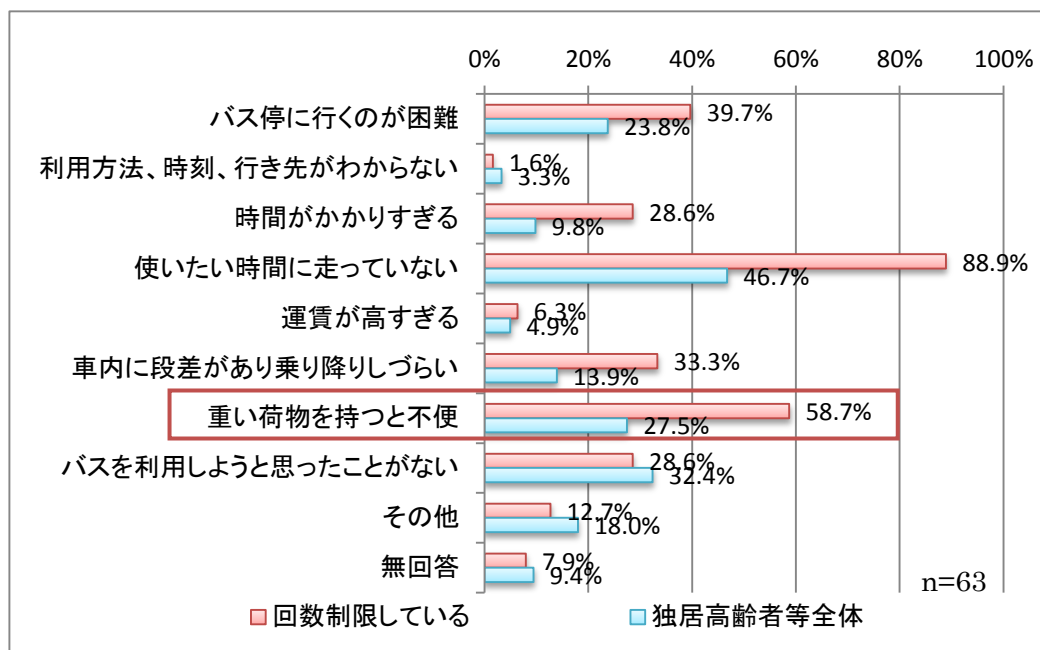


図 2-48 買い物制限をしている独居高齢者等のバスを利用しない理由

高齢者の外出に関するアンケート結果より

3. 地域公共交通の課題の整理

(1) 石川町の現状

■社会経済特性

人口	○他市町と比較しても進む少子高齢化 ○中心市街地及び幹線道路沿道に人口が集積。一方、幹線道路沿道以外にも集落が点在
土地利用等	○町の西部は農用地、中部や東部は森林の中に農用地が点在、建物用地は幹線道路沿道に分布。 ○医療施設は小規模なものが多く診療科目が限られる。 ○小中学校の統廃合により通学環境の大幅な変化が想定される。
財政	○財政状況は、類似の他都市よりは良いものの、厳しい状況にある。

■交通特性

道路交通	○石川町内の国県道路は、中心市街地から周辺部に放射状に整備されており、混雑は少ない。 ○ほぼ1人に1台自動車を保有。
------	---

公共交通	【地域公共交通の運行概要】 ○地域公共交通は、鉄道、バス、タクシーがある。 ○バスは12系統と多いが、すべて国県道路を放射状に通っているため、バス停から遠く利用できない町民も存在。 ○バスは、国、県、町から補助を得て維持されているが、補助制度の規定により、今後の町の補助額は大幅に増加することが懸念されている。 【地域公共交通の利用状況】 ○鉄道利用は、通勤・通学が大部分であるが、近年は利用が減少傾向にある。 ○バス利用者数は、近年は横ばいだが、12路線で1日300人程度の乗降者と利用自体が多くない。 ○タクシーは、近年利用者数が大きく減少。 【地域公共交通の取組と今後の展望】 ○JR水郡線は、利用促進に向けて官民協働で取り組みを始めたばかり。 ○路線バス事業者は、安全面を重視したサービス提供を心がけ、今後も行政補助が維持される限り、町内での運行を望んでいる。 ○路線バス事業者は、当面小・中学校及び高校の通学利用を主のターゲットと考えている。 ○タクシー事業者は、今後も厳しい状況が継続することを懸念しており、乗合事業への参入を考えている事業者も存在。 【バスを利用しない理由（独居高齢者等）】 ○2人に1人は、買い物等に対応したダイヤとなっていないため、バスを利用していない。 ○3人に1人は、そもそもバスを意識していないため、バスを利用していない。 ○4人に1人は、買い物などで重い荷物を持つと不便なため、バスを利用していない。 ○4人に1人は、バス停に行くのが困難なため、バスを利用していない。
------	---

その他	○医療施設の送迎バスが運行。 ○現在、学法石川高校がスクールバスを運行。平成27年度以降は、石川小や石川中に統合される学区のうち、路線バスが運行していない地区でスクールバスが運行される予定。 ○県立石川高校では、入学時に通学方法がわからない生徒も存在。
-----	--

人の動き	○町内の約半数は、郡山市や須賀川市、白河市などに通勤、通学。 ○通勤、通学は、5人に1人が自動車を利用。 ○独居高齢者等は、買い物は市内のスーパーが多く、自動車（送迎、自分で運転）が多い。10人に1人はタクシーやバスも利用。 ○独居校正者などは、多くが町内の医療施設に通院。自動車（送迎、自分で運転）や医療施設の送迎バスが多い。7~8人に1人はタクシーやバスを利用。
------	--

- 独居高齢者等の 3 人に 1 人は、毎回送迎をお願いするのは気が引けると感じている。
- 独居高齢者等の 4 人に 1 人は、重い荷物を持つと不便であるなどの理由で、買い物の回数を月に約 2 回程度制限。
- 独居高齢者等の 4 人に 1 人は、タクシーを利用しているが、運賃が家計に負担となっている。
- 独居高齢者等の 4 人に 1 人は、自動車やバスを利用できず自由に移動できていない。
- 独居高齢者等の 8 人に 1 人は、自動車をやめたいが他の移動手段がないためやめられない。



(2) 石川町の地域公共交通の課題

自動車に乗れなくても住み続けられる移動環境の形成が課題

現在、石川町の独居高齢者や高齢者夫婦世帯では、外出に様々な困りごとを抱えています。

例えば、外出したくても手段がなくてその機会を逃してしまう、買い物の回数を制限している、自動車をやめたいのにやめられないなどです。

また、石川町の路線バスは、多くが周辺市町村と本町を結んでいる長距離路線となっているため、速達性などを考慮して幹線道路を通っています。このため、町内では、駅やバス停まで遠いため地域公共交通を利用したくても利用できない町民が多く存在しています。

加えて、現在の地域公共交通は、通勤・通学以外で利用するには、ダイヤが合わないなどの課題が存在します。

今後、石川町では、さまざまな移動手段を組み合わせ、また、より使いやすいサービスに改善することで、自動車に乗れなくても住み続けられる移動環境を形成することが課題となります。

限られた予算の中、末永く移動環境を維持・活性化し続けることが課題

全国の自治体と同様、石川町の財政状況も決して良好であるとは言えません。

そんな中、現在、町では、地域公共交通の必要性をかんがみ、年間約 2,800 万円程度の支援を行っています。しかし、今後は、被災地特例制度がなくなるため、国からの補助額が減少し、少なくとも 3 割程度、多い場合は、倍以上に支援額が増加することが懸念されています。

一方、少子化が進む中、利用を通学に頼っている町内の地域公共交通は、今後運賃収入の減少と行政支援額の増大が懸念されます。

今後、石川町では、限られた予算の中、末永く町民の移動環境を維持・活性化し続けることが課題となります。

町民が地域公共交通を自然と利用できる雰囲気醸成が課題

町の地域公共交通を維持・活性化していくには、町民が利用しやすい移動環境を構築する必要があります。しかし、現在の鉄道、バスの利用は大部分が通学利用となっており、独居高齢者や高齢者夫婦世帯の 3 人に 1 人は、そもそも「バスを利用する」ということを考えたことがない状況にあります。このように、町民にとって地域公共交通はほとんどなじみのない移動手段であると考えられます。このような中では、単に移動環境を構築するだけでは、利用は増えず、その維持・活性化は困難です。

今後、石川町では、多くの町民が地域公共交通の利用することで移動環境を維持・活性化できるよう、町民が地域公共交通を自然と利用できる雰囲気を醸成し、ことが課題です。

官民一体となった取り組みが課題

他の市町村と異なり、石川町内の公共交通は大部分が民間の事業者が運営しています。地域公共

交通の維持・活性化には、当事者である民間事業者の積極的な取り組みが必要不可欠です。

石川町は、これまでも、赤字分を補助金により補てんすることで、路線バスの維持を図ってきました。しかし、単に赤字を補てんだけでは、地域公共交通が利用され、維持し続けられる状況にはなりません。また、厳しい財政状況の中、今後増加が懸念される補助額を継続的に投じ続けることは困難と考えられます。行政においても、利用促進など地域公共交通の維持・活性化に向けた積極的な取り組みが必要です。

このように、事業者、行政ともに地域公共交通の維持・活性化に向けた積極的な取り組みが必要ですが、個々に施策を実行することは効果的ではありません。

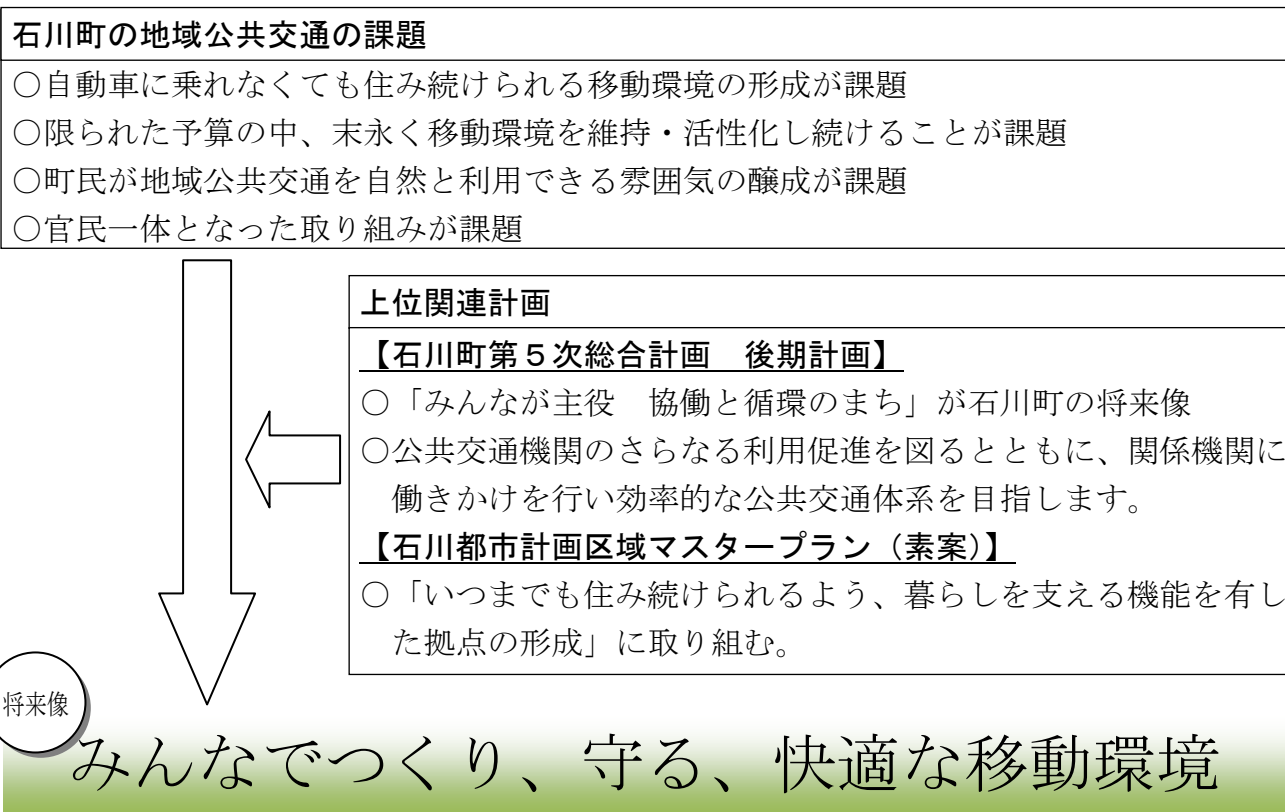
例えば、JR 水郡線は、鉄道事業者と沿線市町村が協働で利用促進に取り組み始めましたが、バスやその他の移動手段についても、広く官民一体となった取り組みを行うことが課題となります。

4. 地域公共交通総合連携計画の目標と方針の立案

4-1. 石川町の地域公共交通の将来像

前章で示した、石川町の地域公共交通の課題と上位関連計画を踏まえ、石川町の地域公共交通の将来像を示します。

なお、この将来像は、短期間で達成できるものではなく、将来的な達成像として設定します。



石川都市計画区域マスタープラン（素案）で示されているような、「いつまでも住み続けられるよう」なまちになるには、生活拠点などに日常生活を満たす施設が立地し、町民がそれら施設を利用できることが重要です。

そのためには、自動車が乗れなくても移動できる環境が整っていなければなりません。

そして、その移動環境は、町民の移動実態に合致している必要があり、かつ、それを町民が利用することで維持していく必要があります。

石川町第5次総合計画では、「みんなが主役 協働と循環のまち」が将来像として掲げられていますが、移動環境も、環境を整備し運用する側（行政や事業者）、利用する側（町民など）みんなが作り、守っていく必要があります。

石川町は、「みんなでつくり、守る、快適な移動環境」を地域公共交通の将来像として掲げます。

4-2. 地域公共交通総合連携計画の計画期間

本計画は、平成26年度～平成31年度の5年間を計画期間とします。

4-3. 地域公共交通総合連携計画の目標

石川町の地域公共交通の将来像を達成するために、本計画における地域公共交通の目標を以下に設定します。

ひとりでも多くの町民が自動車に乗らなくても生活できる環境づくりをめざします！

少子高齢化、人口減少が進む石川町には、今後、高齢者、未成年、子育て世代など、自動車に乗れなくても安心して石川町に住み続けられることが必要です。

既存の地域公共交通や新たな移動手段などが一体となって、生活するのに必要な施設に行けるような環境づくりを目指します。

ひとりでも多くの町民が当たり前のように地域公共交通を利用する雰囲気醸成をめざします！

自動車がなくても生活できる環境をつくったあと、それを守っていくには、地域公共交通が町民に利用されなければなりません。しかし、現在、地域公共交通は通学以外の利用が非常に少なく、町民の生活に浸透しているとは言い難い状況にあるため、環境づくりを行っただけでは、それを維持することは困難な状況にあります。

このような状況を改善し、自動車に乗れる町民も乗れない町民も、当たり前のように地域公共交通を利用するような雰囲気の醸成をめざします。

利用者、事業者、行政で地域公共交通をつくり・育てる仕組みの構築をめざします！

「自動車に乗らなくても生活できる環境づくり」や「地域公共交通を利用する雰囲気の醸成」は行政だけが取り組んだとしても、実現は困難です。

移動環境づくりは、それを実行する交通事業者や移動の目的地となっている施設との協力が必要ですし、サービスを良くするためには利用者のみなさんの視点が必要となります。

また、地域公共交通を多くの人に利用していただくには、利用者のみなさんの意識や行動をクルマ中心の生活から変更していただく必要があります。

このことから、利用者、事業者、行政が協働して「より良い地域公共交通をつくり・育てる」仕組みを構築します。

4-4. 目標を達成するための施策の方向性

ひとりでも多くの町民が、自動車に乗れなくても石川町で生活できる環境の整備

方向性①：町民の移動実態に合わせて、地域公共交通のサービスを改善します。

方向性②：既存の地域公共交通では対応しきれない移動に関しては、新たな移動手段の導入を検討します。

方向性③：さまざまな移動手段が、連携してサービスを提供できるよう図ります。

ひとりでも多くの町民が当たり前のように地域公共交通を利用する雰囲気醸成をめざします！

方向性①：町民が地域公共交通を意識できるような取り組みを行います。

方向性②：地域公共交通のサービス内容などを、町民にわかりやすく情報提供します。

方向性③：地域公共交通の情報は、可能な限り町民に開示します。

利用者、行政、事業者で地域公共交通をつくり・育てる仕組みの構築

方向性①：PDCAサイクルを着実に実行できる仕組みを構築します。

方向性②：利用者、行政、事業者が一緒になって地域公共交通を良くする場を設けます。